



FD&SD 報告書 2024

埼玉純真短期大学 FD&SD 推進委員会

学園設立の目的

本学園は時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある女性を訓育する目的として設立されたものである。従って、次の学園訓を掲げる。

学園訓

気品

人を魅了し、良き師、良き友を得て、
お互いを高め合い、他者をして犯すべからざる
精神性の高さを行動すること

知性

広い視野に立ち、枝葉末節に拘泥することなく、
物事の本質を見定め、考え、判断し、
節度を持った行動をすること

奉仕

多くの人に支えられていることに感謝し、
利害得失を捨てたときに、心の底から生まれる
志に準じて行動すること

はじめに

本学では、「学生ファースト」の視点を重視し、教育の質向上と組織の発展を目的として、FD (Faculty Development) /SD (Staff Development) 研修を推進しています。FD は、教員が教育方法や指導力を向上させ、学生一人ひとりにとって最適な学びの場を提供することを目的とし、SD は、大学運営を支える教職員が専門的な知識やスキルを高め、学生の学修環境をより良いものにすることを目的としています。短期大学として、社会の変化に即応しながら、実践的な教育を提供し続けるためには、教職員が一丸となり、常に「学生にとって最善の学びとは何か」を問い続ける姿勢が不可欠です。

現在、短期大学を取り巻く環境は大きく変化しています。少子化や高等教育の多様化に加え、パンデミック以降、幼児教育への志願者が全国的に急減しているという厳しい現実直面しています。保育・幼児教育の現場では、感染症対策の負担増や労働環境の課題が浮き彫りとなり、若年層の職業選択に影響を及ぼしています。また、地域社会のニーズや家族構造の変化に伴い、幼児教育者には従来以上に専門性の高い知識と柔軟な対応力が求められるようになってきました。こうした状況の中で、私たち短期大学の使命は、学生に「保育・幼児教育の魅力」や「この仕事の社会的意義」を伝え、学びや実習を通じて、未来の保育者としての自信を育むことにあります。

そのためには、教職員が一体となって、学生一人ひとりの学びや成長に寄り添い、適切な指導と支援を提供し続けることが不可欠です。「学生ファースト」を実現し、幼児教育への志願者減少という課題に向き合うためにも、今後の FD/SD において、以下のようなテーマにも積極的に取り組む必要があると考えます。

- 教育現場のデジタル化への対応：ICT を活用した授業設計、ハイブリッド型教育、学生のデジタルリテラシー向上
- アクティブラーニングや探究型学習の実践：主体的な学びを促す授業設計、協働学習の手法の導入
- インクルーシブ教育の推進：多様な学生への支援、特別な支援を必要とする子どもへの指導力向上
- 学生支援の充実：キャリア支援、メンタルヘルスケア、学修支援体制の強化
- 地域社会との連携：地域の教育・保育機関との協力、実習の充実、社会貢献活動の推進
- 保育・幼児教育の魅力発信：幼児教育の意義や魅力を伝える教育プログラムの工夫、実習や現場体験の強化

これらの研修を継続的に実施し、教職員一人ひとりが自らの専門性を高めることで、学生が充実した学びを得られる環境を整えていきたいと考えています。本報告書が、研修の成果を共有し、本学の教育力向上に資するものとなることを願っております。

結びに、本研修の実施に尽力された関係者の皆様、ご参加いただいた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

2025年3月

埼玉純真短期大学 学長 福田庸之助

三つの方針

本学は、「学術の理論及び応用を研究教授すると共に、『建学の精神』に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物の養成」（学則第1条）を目指しています。これを受けて各学科の教育目的・目標を設け、それに向けて学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の三つを、次のとおり明確にしています。

○ 教育目標

こども学科では、「気品」「知性」「奉仕」の精神を反映、具現化させ、こども学科規則第1条で「こどもに関する専門知識を授け、向上心にあふれ優れた人格と協調性を持つ人材の育成を目的とする」という教育目的を掲げて、以下のような子どもを心から愛することができる保育者・教育者の養成を目指しています。

- （１）気品：謙虚な中にも誇りと自信をもち、子どもたちからまねをされていい言葉や態度が身についている。
- （２）知性：多様な学習スタイルから、音楽、美術、体育、言葉などそれぞれの個性を活かした技術・技能を修得している。
- （３）奉仕：子どもたちや保護者、園や社会のために、進んで行動できる人間性と実行力を有している。

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学では、建学の精神を理解するとともに、教育理念・教育目的に沿って設定された教育課程（カリキュラム）を履修して所定の単位を修得し、卒業に必要な次の能力を備えた者に卒業を認定して学位が授与されます。

【知識・理解・技能】

1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。

【関心・意欲・態度】

1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。

＜授与される学位＞

短期大学士（こども学）

＜取得する基本となる免許・資格＞

幼稚園教諭二種免許状

保育士資格

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、「気品・知性・奉仕」という建学の精神に基づき、高い品格と幅広い教養を身につけた短期大学士を育成するとともに、子どもを心から愛することができる保育者として高い専門性を有した人材を養成することを目指して、以下のカリキュラムを編成しています。

【教育科目の配置と展開】

1. 短期大学士として、建学の精神に基づく高い気品、豊かな知性、奉仕の心を身につけるために、「入門ゼミⅠ・Ⅱ」をはじめとする教養教育科目群を配置する。
2. 保育と教育の専門職に就くための免許・資格取得に必要な専門教育科目群を配置する。
3. 保育と教育に関する原理原則、あるいは子どもの心理・発達など基礎的な学習から始まり、その学びを基盤に具体的な保育の指導法や応用的、発展的な演習を実施する学びのステップに配慮した2年間の科目展開とカリキュラムを構成する。

【教育内容と方法】

1. 授業担当教員の個々の専門性や保育・教育現場経験等を生かし、エビデンスに基づいた授業を実施する。
2. 保育者に求められる高い専門性と技術を身につけるために、学生個々の関心や課題に基づいた2年間の保育研究授業や、アクティブラーニングの手法を取り入れた演習授業を実施する。
3. 保育実践能力と保育者にふさわしい倫理観及び人権意識を身につけるために、実習科目を2年間の中でバランスよく配置し、保育・教育現場と協働して実施する。

【学習成果の把握と評価の方法】

1. 各授業科目においては、適正な成績評価基準をもとに定期試験やレポート、小テスト、実技テスト、作品提出等により評価する。
2. 保育実習や教育実習の評価や講評と実習の事前事後指導にかかわる課題の達成状況を評価した上で、精査、吟味し、学修成果を把握する。
3. 学生が開講期ごとに実施する「履修カルテ」を使った自己評価や学習成果の把握に関するアンケートの集計結果など、学生自身が自己評価した学習成果に関する資料やデータの活用や、教員が把握している学生個々の履修状況や学習態度等の情報を加味し、総合的に学習成果を把握、評価する。

3. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」の精神が備わった人間性豊かな人材の育成を理解し、幅広い教養と高い専門知識や技術を身につけ、社会に貢献しようとする意欲ある人材を求めています。

【基礎的知識・技能】

将来の自己実現に結びつく知識や技能を持ち、高等学校卒業程度の学力を有している。

【思考・判断・表現】

子どもを取り巻く事象を多面的にかつ深く考えることができ、分かりやすく説明することができる。

【主体的学習態度】

子どもの保育や教育、子育てに興味や関心があり、将来子どもに関わる仕事に就きたい気持ちがある。

埼玉純真短期大学 教職員人材育成の目標・方針

＜目標とする人材像＞

- 1 純真学園職員就業規則に基づき、本学学則第 1 条の具現化のために学生の範となる行動できる人
- 2 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を十分に理解し、学生が将来にわたり社会に貢献する良き社会人・職業人を育成するためにあらゆる取り組みを実践する人
- 3 本学の学園訓『気品・知性・奉仕』に則り、学則、3つのポリシーを踏まえた、学生自身が学修成果を自覚できるより良い教育・学習の場となるよう「埼玉純真短期大学教員授業実施心得 10 章」を理解し、常日頃から授業改善に取り組む人、及びその取り組みを支援する人

参考

埼玉純真短期大学 学則

第 1 章 総則

（目的及び使命）

第 1 条 埼玉純真短期大学（以下「本学」という）は、教育基本法に則り、学校教育法の定める短期大学として、学術の理論及び応用を研究教授する共に、純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成し、地域の発展に寄与することを目的とする。

教員授業実施心得 10章

(趣旨)

第1章 本学の学園訓「気品・知性・奉仕」に則り、学則、3つのポリシーを具現化し、学生自身が学習成果を実感できる教育・学習の場となるよう、本学の専任ならびに非常勤教員（以下教員）が、本学での授業実施にあたり留意すべき事項を掲げる。

(目的)

第2章 「純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人材を養成する」との学則第1条の目的、こども学科規則第1条の「こどもに関する専門的知識を授け、向上心あふれる優れた人格と協調性を持つ人材の育成」を達成するためにも、教員自らがこのことを十分に理解し、保育者を目指す学生にとっての良き手本となるよう行動する。

2 本学が掲げる3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）を教員自らが十分に理解し、学生にも理解させた上で、授業の到達目標を達成できる授業を行う。

3 本学は保育者養成を目的とした短期大学であり、大学院や研究所などの研究機関とは、その性質を異にすることを認識した上で、本学の教員は時代や社会の変化に柔軟に対応して授業実施において改善・改良を重ね、学習成果を学生自らが実感できる魅力ある授業を行う。

(努力目標)

第3章 この目的のために、次のことを念頭に置き、学生の教育と指導に臨まなければならない。

（1）授業には、理論と実践をバランスよく盛り込むよう努力する。

幼児教育・保育の専門職として地域社会に積極的・自発的に貢献できる人物を養成するために、理論的・実践的知識や技術をバランスよく授け、保育・教育の本質を十分に理解させ、信頼される保育者となるに十分な授業を展開する。

（2）保育・教育現場の実態を把握し、授業に活かすよう努力する。

幼児教育・保育の現場は時代の要請を受けながら常に変化をしている。この時代と変化を先取りした教育を行うことがきるよう、教員は保育・教育現場に関心を持ち、足を運び、その実態把握をした上で、より具体的に学生にとって理解しやすい魅力ある授業を行う。

（3）具体的事例を交えるなど立体的な授業を展開するよう努力する。

教員はそれぞれが持つ個性と科目特性に基づき、学生に感銘と感動を与え、知的好奇心をさらに喚起する授業の実現のために、フィールドワークなどを積極的に行い、得られた具体的な内容を授業に盛り込むなど、学生が興味を抱きながら取り組める授業を行う。

（4）学生主体の学習成果が確認できる授業展開と評価方法を実施するよう努力する。

授業においては達成目標と学習成果の確認方法、ルーブリック活用の意味なども説明する。このことから授業終了時にはフィードバックテストを行う意味なども理解させ、学生が学習成果を意識する授業を行う。このためにも、学生自身が事前・事後学習の必要性や重要性を感じ、学習到達度を意識しながら授業に主体的に取り組めるようする。

（5）教員は自らが手本となるよう、その服装・態度・言葉遣いなどに十分注意する。

学生が本学での学生生活を通して、信頼される保育者としての態度や習慣を身につける

よう、教員自らが手本としてTPOに応じた服装・態度・言葉遣いを心がけ、自らも学びを楽しむ態度で授業に臨む。

＊授業中はもちろんキャンパス内では、教職員や学生に対し必要以上に大声を出したり、他人を中傷したり、批判的・否定的な発言をするなどの行為は差し控える。

＊若者の言葉遣いは、学生に対しても親しみを持たせる意味もあるものの、良識ある社会人としての言葉遣いで接し、学生に正しい言葉遣いを習慣づけるよう努める。

＊学生を呼ぶ場合は、できる限り学生の姓に「さん」をつけるよう心がける。呼び捨てや親しみの意味での「ちゃん」付けなども、状況にもよるが、あまり好ましいとは言えない。

＊廊下などですれ違った時など、学生から挨拶がなくとも、教員が積極的に声がけをし、挨拶の重要性を認識させ、習慣づけるよう指導する。

＊研究室や事務室への入退室の際は、社会人の常識として挨拶をしてから出入りできるように指導する。

(6) 授業（教育活動）に活かすための研究を積極的に行う。

授業が学生にとって、より興味深い、意義あるものとなるように、教員は研究日などを積極的に利用し、担当科目や専門領域はもちろんそれ以外の広い分野で調査や研究などを含む活動を心がける。このことは授業の厚みを増すことにつながる。

なお、研究等にあたっては「研究倫理」をはじめ「コンプライアンス」を念頭に置き、不正防止に努めるようを常に意識して行うこと。

(7) 良き社会人・職業人となるよう本学の学園訓を常に意識した授業を行う。

保育・教育の専門知識や技術を備えた良識ある社会人として社会に貢献できる人材養成のために、保育・教育の分野に留まらず人間関係調整力（コミュニケーション力など）を含めた社会人・職業人としての常識的行動・姿勢・態度を養うよう学園訓を意識した授業を展開する。さらに「学力の3要素」といわれる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」育成も大学教員の責務の一つと言える。

(授業実施)

第4章 授業開始時刻・終了時刻など時間の厳守を徹底する。

授業においても良き社会人・良き職業人として、基本的かつ常識的マナーである時間厳守を教員自らが、学生に示さなければならない（時間厳守は信頼の重要な第一歩である）。

＊教員は授業開始時刻前に教室に到着し、授業終了時刻も遵守する。

＊教員が教務担当者へ何ら連絡をしないまま、20分以上授業の教室に現れない場合は、当該授業は自動的に休講とし、後日、必ず補講を行わなければならない。

＊授業終了時、電灯や冷暖房のチェック、教室内の整理整頓など教室管理を教員自ら行うとともに、保育者を目指す学生にこのことも習慣づけるよう指導する。

2 始業・終業時における「立ってきちんと挨拶をする」ことを徹底する。

各期の初回授業で学生に対して、授業開始時と終了時に「挨拶（語先後礼）」を行うことなど、授業実施における約束事を明確な表現で示す。これは先生と呼ばれる職業人としても、また社会人としても「アタリマエ」のことであり、学生に習慣づけなければならない。

い。

- 3 出・欠席の確認をおこない出席が常でない学生がいる場合など、早急に対処をする。

学生を所期の目的達成（資格・免許状取得）に導くために、授業への出席は最も重要なことと考える。学生には出席回数（2/3）で定期試験受験資格を失うことも伝える。また、学生の欠席が3回となった時点で、1年生はクラス担任が、2年生はクラス担任とゼミ担任とが連絡を取り合い、該当学生に指導を行う、保護者等に連絡するなど指導を行うことを学生に周知する。教員は毎授業で出席確認を行い、欠席者の状況を記入した欠席票をトレーに入れる。出席が常でない場合、学生の退学や卒業・資格取得不可が懸念されるので、科目担当者は可能な限りクラス担任・ゼミ担任とも連絡を取り合い、学生への迅速な対応をする。

- 4 適度な緊張感を持たせた授業に取り組む。

授業へ集中させるため、授業にグループワークなどを織り交ぜるとともに、学生の座席は個々の教員で工夫して配置替えを行うなど、学生の学習への積極的取り組みを喚起する。

また、授業実施にあたり学生数や使用施設設備などの関係で授業に不都合が生じる場合は、教務担当者に変更依頼をし、適切な規模や施設設備のある教室に変更する。

- 5 社会常識（職業人として）のTPOの指導を徹底する。

授業時には、特別の事情のない限りコート・マフラー・帽子等を脱ぎ、着席するよう指導する。また、TPOを心がけ、体育着などでの登下校や講義出席等がないようにも注意する。ただし、冬季等で特に教室内が冷える場合、あるいは学生から風邪など体調不良の申し出がある場合などの特別の事情のあるときは授業担当教員がその場で適宜判断する。

また、学生が常識を知らないことで社会に出て不利益をこうむらないように、バッグなどは机の上に置かない、授業教室での飲食は担当教員の許可がある場合を除き禁止であることなど、TPOを心得た社会常識的行動が習慣となるよう指導する。

（授業回数）

第5章 本学の授業時間は1コマ90分の15コマと定期試験を原則とする。

大学行事や実習などでの休講措置で、やむを得ない事情により授業回数が不足する場合は、教務担当者と実施日などを打ち合わせ、必要時間数の補講を必ず行う。

（魅力ある授業）

第6章 学生にとって魅力ある、学習成果が期待できる学生主体の授業に取り組む。

教員は授業を魅力あるものとし、学習成果を高めるため、その内容や方法などに創意工夫をするように努めるとともに、科目特性と達成目標に合わせた最適な授業方法を試みる。

1. ICT（インターネットなど）機器の利用の授業（各教室に設置）
2. プレゼンテーションやマイクロティーチングを取り入れた授業
3. 学生同士の意見交換・共同作業などの相互学習（グループワーク）
4. 事前学習と事後学習を求める授業（課題設定や問題発見・解決など）
5. 授業で質問（感想）用紙を配布し、教員が回答するなど双方向学習
6. 理解度の確認のための小テストとフィードバックの実施（学習成果の確認）
7. 保育・教育関連施設や人物など地域全体を学びの場とした授業（要：事前相談）

8. その他、教員が魅力ある授業実施ために最適と考える方法（要：事前相談）

(望ましくない授業)

第7章 教員は教育のプロフェッショナルとしての自覚と誇りを持ち、授業に取り組む。

次に掲げる形態の授業は第6章を踏まえ、これを原則として行わない。

1. 講義一辺倒で、学生の質問や意見など学生の反応を確かめない学生不在の授業
2. 教科書などを読み上げるか、単に教科書などの解釈に終始する授業
3. 板書の多い授業（板書は要点に留め必要な資料はパワーポイントや印刷で作成・配布する）
4. 毎年、同じ内容の同じ資料提示など、話題や事例等に新鮮さや時代反映が見られない授業
5. 理解できないのは、学生の責任であるとの一方的な見方や考え方で行う授業

(授業実施上の注意)

第8章 授業において教員は次のことに留意しなければならない。

1. 単位制の趣旨に基づいて、学生に適切な事前学習、事後学習を徹底させる。
(授業を楽しいものとさせ、学習成果を高めるためにも一定時間の学習は重要である。)
2. 信頼される保育者、良き社会人として、キャンパス内でのマナーを徹底させる。
(「先生」と呼ばれる職業を目指す学生に表情や態度、言葉遣いの重要性を認識させる。)
3. 差別的・他者との比較もしくはハラスメント的な言動しないように注意する。
(特に、学生に対する言動には十分注意を払う必要がある。)
4. 授業中の教室内での飲食や化粧・スマートフォン禁止など社会常識を徹底させる。
(ただし、授業の内容や方法により、授業担当の教員が認めた場合はこの限りではない。)
5. 授業の内容と関係のない、授業の流れを妨げる私語、もしくは喧騒行為はさせない。
(この他、机にうつ伏せ状態など極端な居眠りなど、他の学生への授業の妨げや不快感を与える行為などにも注意を与える。体調不良などは保健室へ。)
6. 授業開始後の遅刻や中途退席などでは、必ず挨拶をさせるようにする。
(入退室にあたっては、社会人としてのマナーである挨拶を必ずさせるよう指導する。)

(教員相互授業参観)

第9章 自らの授業の改善に資するため、他の教員の授業を参観し、相互に授業の改善への努力をする。

1. 授業参観の割り当ていかんにかかわらず、本学教員は他の教員の授業を相互に自由に参観し、自らの授業向上を図らなければならない（本学教員の義務）。
2. 授業参観報告書は、FD&SD推進委員長・教務部長を経由し学長に提出する。この報告書は事務局長が保管・管理をし、教職員は必要あるときには自由に閲覧できる。

(授業実施の発表)

第10章 専任教員は授業の改善・向上のため、自らの授業実施報告をFD&SD活動の一環として、原則、毎年1回、教職員の会議にて口頭にて発表する（教務部長・FD&SD推進委員長担当）。

以上

FD&SD 報告書 2024 目次

FD & SD研修

高橋 努	今年度の学生募集について	1
布施 由起・三友 玲子	令和6年度自己評価シートについて	2
山畑 昭司・大木 美晴	改修後の図書館利用状況について	5
金子 智昭	教育評価の改善に向けたループリック活用	9
塚田 展子	アフターコロナ時代の学生相談・学生支援のあり方	10
福田 庸之助	「遊びの達人」ワークショップ	15
岡田 恭子	特別支援保育・発達障がいの子どもの持つ親の気持ち	17
山田 耕平	子ども支援センターの現状と課題	21
加藤 房江	実習指導について	26
的野 陽	ハラスメントゼロの職場を目指して	30
塚越 亜希子・布施 由起	シラバスを執筆する際の留意点	31
片口 桂	過年度卒業生に対するアンケートの結果を基にした改善について及び 卒業生の進路先への意見聴取を基にした改善について	33
塚越 亜希子・瀬戸 奏	授業改善にむけた「授業評価アンケート」のデータ活用	39
瀬戸 奏	「自己評価シート」に基づいたFD&SD活動	42

職員取り組み 3分スピーチ

白倉 律子	43
大木 美晴	44
大澤 尚子	45
奥貫 慶一郎	46
栗原 奈緒美	47
五月女 和美	48
鈴木 君代	49
相馬 萌	50
田口 宏美	51
田中 淳一	52
寺田 明美	53
中村 周	54
西山 理恵	55
松浦 文江	56

相互授業参観報告	57
----------	----

【発表日】令和6年4月24日（水曜日）

【発表者】入試広報委員会 高橋 努

今年度の学生募集について

1. 目的

高校訪問の時期を控え、全教職員が高校訪問対応できるよう、模擬演習を行うことで、面接技術や方法について見直しを行うことを目的とする。

2. 内容

訪問する本学教職員役を入試広報委員長が演じ、高校教員役を事務局長が演じる。

【ロールプレイ内容】初対面の進路指導主事との面談

初めまして。埼玉純真短期大学の高橋と申します。（名刺を差し出しながら）本日は、お忙しい中お時間をとっていただき、誠にありがとうございます。失礼致します。（本年度の入学生の状況や、在校生の情報を提供）

<持参した大学の資料を広げながら・・・>

まず、初めに、本日お持ちした資料について、こちらが、本年度の指定校推薦のご案内です。本年度 名の推薦枠で、評定平均 となっております。こちらが、指定校推薦で使用する推薦書（ 部）、大学案内と募集要項となっております。推薦書及び大学案内、募集要項は、予備として1部多めに持参いたしました。

<OC のパンフを広げながら・・・>

続きまして、オープンキャンパスのご案内、ニュースレターとなっております。（オープンキャンパスについては、開催予定をご紹介します）

<大学案内を広げながら・・・>

本学について、少しお話しさせていただきます。本学は、県北の羽生市にあります、こども学科のみの、保育士・幼稚園教諭を養成する単科大学となっております。入学定員は、150名。また、女子のみという今では数少なくなった大学です。

最寄り駅は、東武伊勢崎線と秩父鉄道の羽生駅です。駅からは、大学のスクールバスが、授業時間に合わせた形で、送迎させていただいております。また、学生の3割程度は、自家用車での通学をしています。

学生の多くは、埼玉県内が6割程度ですが、栃木県、茨城県、群馬県などからも多数入学しております。（そのほかには～などからも入学していました。）遠方からの学生には、提携している学生アパートなどを紹介させていただいております。

<大学案内のページを示しながら・・・>

本学では、学園訓の「気品・知性・奉仕」を柱として、明るく気品のある保育者養成を行っております。

3. まとめ

およそ10分程度の時間ではあったが、元高校教員とのやり取りを見ていただくことで、訪問時の参考として頂ければと考えている。

保育・幼児教育の業界の現状や訪問時期のトピックスも持参し、保育者養成の理解を深めていただき、本学への進学希望者増に繋がることを願っている。

【発表日】 令和 6 年 4 月 24 日（水曜日）

【発表者】 自己点検・評価委員会 布施由起・三友玲子

令和 6 年度自己評価シートについて

1. 目的

令和 5 年度より、各委員会が自己評価シートを作成し、本学の運営において PDCA サイクルを回す取り組みを進めてきた。しかし、各委員会において書き方にばらつきが見られたため、統一したフォーマットを確立し、自己評価シートの書き方を周知することを目的とする。

2. 自己評価シートの書き方の留意点

以下の点に留意し、自己評価シートを作成する。

① 事業計画との連携

- ・今年度の事業計画に沿った目標を設定し、PDCA サイクルを明確にする。

② 目標の設定

- ・昨年度の課題を基に、令和 6 年度事業計画に繋げる。キーワードは「改善」。

③ 具体的方策と目標

- ・曖昧な表現を避け、時期や具体的な数値を明記する。

④ 評価項目の明確化

- ・具体的な評価方法を記載する。

例：自己点検・評価報告書の執筆を年内（令和 5 年 12 月まで）に完了できるよう計画的に取り組む。または、令和 4 年度報告書を令和 5 年 12 月までに発刊する等

⑤ 評価項目の達成状況

- ・具体的な数値を記載する。
- ・「具体的方策と目標」で掲げた内容に対し、それぞれの達成状況を記入する。

⑥ 評価結果の反映

- ・今年度の評価は必ずしも「A」でなくてもよい。「C」や「D」の評価であれば、次年度の課題として持ち越す。

⑦ 次年度への課題と改善策

- ・具体的方策と目標 → 評価項目の達成状況 → 次年度への課題と改善策の流れを明確にする。
- ・達成できなかったことは、次年度の目標とする。

3. 今後の課題

本学の運営をより計画的かつ効率的に進めるため、自己評価シートの制度を向上させる必要がある。埼玉純真短期大学全体が、学生にとって「後輩に進めたいような大学」となるよう、さらなる改善を図る。



令和6年度 自己評価シートの作成にあたり

2024年度埼玉純真短期大学事業計画

- 1) 入学者の確保
- 2) 授業の充実と学習成果への取り組み
- 3) 学生支援
- 4) 学生の満足度を高める
- 5) 自己点検・FD &SD研修活動
- 6) 地域連携
- 7) 運営委員会・将来構想委員会

①今年度に沿った目標を自己評価シートに取り入れていく

②PDCAサイクルを明確にする

「目標」「具体的方策と目標」

目標
昨年度の課題点を元に令和6年度事業計画につなげていく
キーワード「改善」

具体的方策と目標
曖昧なものではなく、時期や具体的な目標数値などを入れていく
例) 学生の学習意欲を高める×
〇月までに〇〇をして…

①令和4年度中に原稿執筆担当者から原稿を集めはじめ、**遅くとも夏には**すべての原稿を提出いただく。

②**第1回委員会の時点より**発行目標を設定し、計画的に執筆作業を進めていく。

評価項目

評価項目
具体的な評価方法を入れる
例) 学生の満足度 →×
学生の〇〇アンケート調査
(令和6年度〇月実施) →〇

・自己点検・評価報告書の執筆を年内(令和5年12月まで)に発行できるよう、計画的に取り組む。

・令和4年度報告書を令和5年12月までに発刊する

評価項目の達成状況

評価項目の達成状況
・具体的な数値等を入れる
・「具体的方策と目標」で掲げた内容に対してそれぞれ達成状況を記入

具体的方策と目標

①令和4年度中に原稿執筆担当者から原稿を集めはじめ、**遅くとも夏には**すべての原稿を提出いただく。

②**第1回委員会の時点より**発行目標を設定し、計画的に執筆作業を進めていく。

①令和5年中の発刊を目指し計画的に作業を進めた結果、**12月20日教団会において審議し、発刊**することができた。

②発行目標を年内に設定。委員会内で状況を確認しながら進めた。

達成度

令和5年度 埼玉純真短期大学 自己点検・評価委員会 自己評価シート

達成度
必ずしもAでなくてもよい
CやD評価であれば次年度に!

次年度への課題と改善策

次年度への課題と改善策

具体的方策と目標→評価項目の達成状況
→次年度への課題と改善策とつなげていく
→達成できなかったことは、次年度の目標へ(PDCA)



①当初目標は達成できたが、次年度はさらに発行時期が早まることから、発行段取り等を引き継いでいく。

②令和6年2月委員会で次年度スケジュールなどを調整する。

まとめ

2024年度埼玉純真短期大学事業計画

- 1) 入学者の確保
- 2) 授業の充実と学習成果への取り組み
- 3) 学生支援
- 4) 学生の満足度を高める
- 5) 自己点検・FD &SD研修活動
- 6) 地域連携
- 7) 運営委員会・将来構想委員会

①今年度に沿った目標を自己評価シートに取り入れていく

②PDCAサイクルを明確にする



令和 年度 埼玉純真短期大学 委員会 自己評価シート

評価項目	評価結果	改善策
1. 入学者の確保	達成率 80%	入学者の確保に努める。
2. 授業の充実と学習成果への取り組み	達成率 70%	授業の充実と学習成果への取り組みに努める。
3. 学生支援	達成率 60%	学生支援に努める。
4. 学生の満足度を高める	達成率 50%	学生の満足度を高めるに努める。
5. 自己点検・FD &SD研修活動	達成率 40%	自己点検・FD &SD研修活動に努める。
6. 地域連携	達成率 30%	地域連携に努める。
7. 運営委員会・将来構想委員会	達成率 20%	運営委員会・将来構想委員会に努める。



【発表日】令和6年7月24日（水曜日）【発表者】山畑昭司（図書館長）・大木美晴（司書）

改修後の図書館利用状況について

1. 目的

図書館改修工事により改善された施設の物理的な変化と本学学生の利用状況および心理的な変化等について調査・分析・発表し、学生ならびに教職員への図書館サービスの継続と充実を図る。

2. 内容

①改修「前」と改修「後」を具体的に示した写真の提示

- ・ 入口ドアの改修
- ・ カウンター配置の変更
- ・ 窓の改修
- ・ 書架の改修
- ・ 絵本閲覧スペースの設置
- ・ 木製書架、木製書棚の導入（ものづくり大学との共同研究）
- ・ 大型絵本収納木製キャビネットの設置（ものづくり大学との共同研究）
- ・ 学生の利用する様子

②図書館閲覧記録から見る利用状況

- ・ 前年度より学生数が減少しているため入館者数が減少しているにもかかわらず、貸出冊数は前年度より増加している。

③図書館改修後の利用について（アンケート結果から）

- ・ 改修後の図書館の印象や感想（上位ベスト10）
 - 1 居心地いい、過ごしやすい、くつろぐ
 - 2 明るい
 - 3 きれい、綺麗
 - 4 木がいい
 - 5 広い
 - 6 ドア、扉が使いやすい
 - 7 本を探しやすい
 - 8 かわいい
 - 9 クッションがいい
 - 10 優しい雰囲気

3. 考察

- ①学生数減少、入館者減少にも関わらず、貸出冊数は令和5年度より増加している。
改修後の利用状況が良化したと考えられる。

- ②心理的に良好な状態を表す「居心地等」に対して学生の評価が高くなっている。学生の意識は、施設の機能性に加え、ビジュアルや居住感覚等に向くと考えられる。

改修後の 図書館利用状況について

図書館運営委員会 2024.07.24



入ロドア

- ・内開きのスチール製ドアから木目調の両開きスライド式ドアに改修。
カウンター前のスペースが広く使えるようになった。
- ・ドア全面を展示台等で塞がず、開放的で入館しやすい雰囲気をもたせるようにした。



カウンター配置の変更

- ・学生が利用できる館内のエリアを広げた
- ・中庭につながるドアから出入りができる状態になっている

BEFORE



AFTER



窓の改修

UVカット&木目調加工を施し、明るさと暖かみのある空間となった。

BEFORE



AFTER

特徴的な窓枠の形が活かされ可愛い雰囲気。



館内1 書架を低くし館内の奥行が見渡せるようになったため、広さを感じられるようになった。
窓からの採光が可能になり明るくなった。



BEFORE

AFTER

館内2 絵本等を閲覧できるスペースを設置した



BEFORE

AFTER

木製書架・展示台の導入（ものづくり大学共同研究）



BFORÉ
椅子と段ボール箱を組み合わせた展示台…



AFTER

木製書架・展示台の導入（ものづくり大学共同研究）



BFORÉ
大型絵本を事務用キャビネットに収納していた
取り出すたびに他の絵本が倒れて
しまうため、使いづらかった



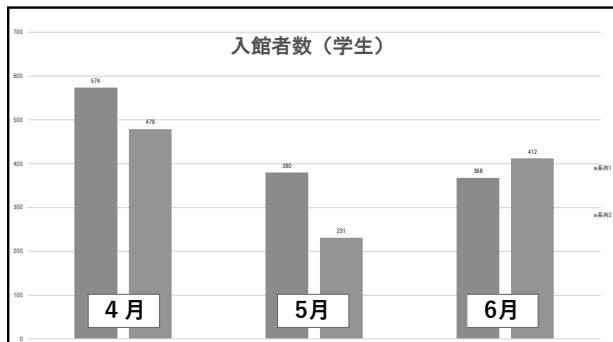
AFTER

改修後の利用の様子

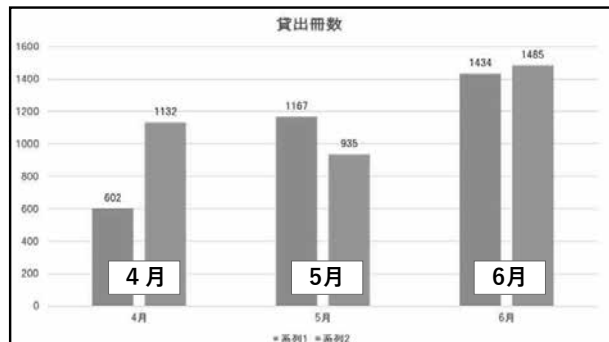


図書館閲覧記録から

入館者数（学生）



貸出冊数



図書館改修後の利用について アンケート結果から

2024.07.16実施

対象2年生

回答数98

質問1

改修後、図書館を見学または利用しましたか？

①改修後、一度も図書館にっていない

回答： 2 (2%)

②利用した (2階の座席利用や、空き時間を
過ごす場所としての利用も含む)

回答： 96 (98%)

質問2

改修後の図書館の印象や感想を
自由に書いてください

★キーワード検索による結果分析

1	居心地いい、過ごしやすい、くつろぐ	41
2	明るい	23
3	きれい、綺麗	16
4	木がいい	16
5	広い	12
6	ドア、扉が使いやすい	11
7	本を探しやすい	9
8	かわいい	8
9	クッション	6
10	優しい雰囲気	5
11	窓からの景色	3

埼玉純真図書館

3K

K⇒きれい

K⇒かわいい

K⇒気持ちいい

以上、図書館運営委員会の発表を終了します

ありがとうございました

【実施日】 令和 6 年 7 月 31 日（水曜日）

【講師】 鎌倉女子大学短期大学部 講師 金子智昭 先生

教育評価の改善に向けたルーブリック活用

1. 目的

本研修は、ルーブリックの意義や特徴、効果について理解を深め、学習のねらいや到達目標を教員と学生が共有できるツールとしてより効果的に活用できることを目的とする。

2. 内容

① 教育評価におけるルーブリックの意義

絶対評価の基準を可視化し、客観性と公平性を担保することができる「評価基準表」として考案された（教員と学習者の）目標追求活動の過程を最適化するための手がかりとなる教育評価ツールという位置づけである。

② ルーブリックの特徴

- ・ルーブリックの構成要素は、学習課題、評価尺度、評価観点、評価基準が基本となり、ルーブリックの種類に関しては目的や使用方法に応じて選択する。
- ・ルーブリックを活用することで目標が明確化され、学生は達成すべき事項を理解し、学習意欲の向上が期待できる。また、教員はルーブリックをもとに一貫性をもって採点を行うため、教員、学生双方間で意見の対立を減らすことができ、フィードバックへもつなげていくことができる。

③ ルーブリックの作成手順

ステップ1／学習課題を定める→ステップ2／評価観点（評価基準）のリスト作成→ステップ3／評価尺度と評価基準の作成→ステップ4／表の作成→ルーブリックの運用

④ ルーブリックの活用事例の紹介

『埼玉純真短期大学「教育課程と保育の計画・評価」におけるマイクロティーチング（5コマ）』

- ・学生がルーブリックを活用したことで、「学習状態の認識」（理解できたこと、できていないことを認識する）、「学習課題の設定」（課題を認識）、「今後の学習への活用」（課題を意識して授業へ取り組む）ができるという利点があった。
- ・教員がルーブリックを活用したことで、「学習者の学習プロセスの可視化」「教育成果の確認と改善点の発見」「個々の学生のつまずきへのフォローアップ」ができるという利点があった。

3. 今後の展望

ルーブリックは教員が評価を付けるためだけのツールではなく、学習への活用にもつながっていく。本学も学生へとルーブリックを開示しているが、より効果的に使用するために担当教員は学生への十分な説明を行う必要がある。また、学生の状況は常に変化していくため、今後も改良を続けていきたい。

（報告者：FD&SD 推進委員会委員長 瀬戸奏）

アフターコロナ時代の学生相談・学生支援のあり方

武蔵野心理教育研究所

臨床心理士 塚田展子

はじめに

ご紹介いただきました塚田展子(つかだひろこ)と申します。よろしくお願いいたします。
本日は、「アフターコロナ時代の学生相談、学生支援のあり方」をタイトルにして、「短期大学における学生相談」と「コロナ禍からアフターコロナ時代を迎えて」の二つのテーマを中心にお話いたします。

本題に入る前に、自己紹介を兼ね、私の学生相談の関わりについてお話いたします。

短大及び大学における学生相談の経験は約 30 年にわたります。ある私立短大に新設された専任カウンセラー及び、講義を兼務する専任教員として着任しました。小規模の短大でしたので、保健師などの専門職の方もおりません。数コマの授業を持ちながらウエイトをカウンセラーに置いた環境のなかで、学生相談の経験を積むことができました。カウンセラーとして何ができるのか、何をなすべきか等、当時はずいぶん悩み迷いながら取り組みましたが、医療機関に繋げるタイミングを見極めることについては重視してきました。

本日の研修の内容を3つに分けて進めていきます。第一に、コロナパンデミックをどう捉えるか。第二に、青年から成人への移行期にある学生の最近の傾向、及び学生相談のあり方について、第三に、コロナ禍からコロナ禍後の社会にどう向き合うかについて考えていきます。

コロナパンデミックをどう捉えるか

2020 年 1 月 15 日以降、未知の感染症（新型コロナウイルス感染症=COVID-19）は全世界的な流行へと拡大していきました。この新型コロナ感染症によって、これまでのあらゆる日常活動に制限や行動の変容を求められました。この変容は「非日常」の「緊張を伴う」できごとであり、災害と同じように大きなストレス源となりました。約 3 年間、感染防止のため、行動の自粛や他人との距離をとるなど「新しい生活、行動様式」が求められました。社会参加においても制約が生じ、「社会的な拘禁状態」も数年間は続きました。

長く続くコロナパンデミックの影響

2023 年 5 月 8 日をもって感染症法上の位置づけが 2 類から 5 類へ移行し、行動の制限などが解除されました。「普通の生活に戻ってもいいですよ」ということになった訳ですが、マスクの着用は各自の判断に委ねられました。しかし、学校では、その対応をどうするのか、とても苦労されたと思います。

災害や危機的状況に陥ると、その影響は長く継続するといわれています。ある日をもって「明日からは普通に過ごしてください」といわれても、急に普通の生活ができるようになる訳ではありません。コロナ禍では、集団感染拡大の防止のため、小中学校、高校はマ

スク着用、大声を出さない、黙食そして3つの密（密閉・密集・密接）を避け、集団における身体的距離を確保することが呼びかけられました。

最近になって、コロナ禍の小中学生、高校生、大学生の心理面への影響について報告がなされていますが、パンデミックがもたらす影響として、心身にさまざまなメンタルヘルス上の問題が生じます。影響は多岐にわたりますが、特にコロナ禍年齢が発達上のどの時期に該当したのか、丁寧に考察する必要があります。例えばコロナ禍にあった子どもが小学校に入学した場合、「落ち着きがない、みんなと一緒にの行動が取れない、話を聞いていない」など、子どもの対応に苦慮するという意見があります。おそらく園児の頃にコロナ禍であって、一緒に遊んだり、踊ったり、唄ったりするなどの集団行動の基本を経験する機会が少なかったために、身についていないのではないかと推測されます。

1. 短期大学における学生相談

日本学生支援機構「大学における学生相談体制の充実方策 2007」の報告書によると、高等教育機関における学生支援・学生相談は車の両輪に例えられ、大学教育の一環として「豊かな知識を教授し、学生の個性性と多様性に配慮しつつ、学生の成長を促す」こととされました。学生に関わるすべての教職員が一緒になって取り組むことが求められることになりました。このように、社会に出ていく前の最後の教育機関としての大学は、学生の成長をいかにサポートするか、大きな課題となってきた経緯があります。しかし、この命題は思うように進みませんでした。

日本学生支援機構の令和3年の報告によると、「学生相談に関する組織におけるカウンセラーの配置状況」のなかで、短期大学において専門家（臨床心理士・公認心理師）の資格を有するカウンセラーは87%、4年制大学は92.2%と高い比率を示しているものの、いずれも「非常勤」カウンセラーが多数を占めています。

この学生相談のカウンセラーは大学組織の中での身分が常勤か非常勤か、教員職か事務職か、教授会の一員か否か・陪席参加か、の何れかによって、学生への関わりや大学側への働きかけなどに大きな差があると考えられます。私の場合は、常勤・専任教員で教授会に参加でき、学内状況や行事・日程などほとんどの情報と学生生活の悩み・学業課題等をほぼ共有することができました。しかし、非常勤の場合は多くの時間的制約を受けることになり、学生が訪れやすく相談に集中できる環境の確保が困難で、キャンパスの中に安心して相談できる場所があるというメリットが全く活用されないと感じました。

大学における学生相談は、相談件数が増加傾向にあり、相談内容が複雑化・多様化していることから、カウンセラーの充実等を含めた、学生相談体制の整備・充実が大きな課題となっています。

学生相談の役割

学生相談は、学業や就職、将来について、対人関係、学生生活、心身の健康、メンタルヘルス上の悩みなど相談の内容は多岐にわたります。この中で入学直後の学生相談は、学業と、

対人関係に関する相談が多く、相談室の対応の仕方の如何によって、学生の将来を左右しかねない難しさを持っています。学生相談に訪れる学生の多くは数回の面接で、キャンパスの中で学生生活を送ることができ自力で卒業に至ることが多いのですが、なかには在学期間を通して長期にかかわる必要のある学生もいます。長期にわたって支援が必要な場合こそ、専門家によって、時間をかけて行うカウンセリングが必要になってきます。

最近の学生の傾向

青年期にある大学生は、心が揺れ動く時期にあります。今日の学生は、考えをゆっくりと深めていくというより、迷ったり悩んだりする葛藤を避け、結論を急いで求める傾向になりがちであるように思います。悩むことができるということは、「悩む力」が育っていることでもあります。自分が何を感じ、何を考えているのかという、内面を見つめることを避け、身体的な不調を訴え、自傷行為や過食など何らかの症状・行動としてあらわれてくるものが多くなっているように思われます。

日本学生支援機構の平成25年度の学生相談に関するアンケート結果でも、学生相談に関する今後の課題のなかで、特に必要性が高いと思われる事項として、大学全体では、「悩みを抱えているにもかかわらず、相談に来ない学生にどう対応するか」が85.9%と最も高い割合を示しています。この「悩みを抱えていながら相談に来ない学生」は、人に話しても解決しない、人に知られたくないというような声として多く聞かれますが、これにはさまざまな要因が絡まっていると思われる。

対人関係にまつわる緊張や不安の訴えは、相談に訪れる学生のなかでもかなり高い割合を占めています。「友人関係に気を使う」、「自分がどう思われているのか気になる」などの漠然とした不安を抱き相談室を訪れる学生は、「仲間から疎外されたくない」という思いのために自分の気持ちを抑え、過剰に気を遣い、それが対人関係のストレスとなり、心身の疲労をもたらすようです。

スライド6に示しましたが、人に助けを求めることができないという「援助希求能力の乏しさ」とは、「誰か私の話を聞いて!」「どうしたらいい?」と表現することができず、独りで問題や課題を抱えてしまうことであり、このような傾向にある学生に大学側はどのような対応ができるのか、考えなくてはならない新しいテーマであると思います。

2. 新型コロナウイルス感染症の世界的危機

ベッセル・ヴァン・デア・コーク博士は、流行直後の2020年5月に「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的危機—このトラウマ的状况をいかに乗り切るか。自分のため、そしてクライアントのために—」のメッセージを発信しました。・トラウマとは、災害や事故などを体験すると心身に強い負荷となる外傷を表す意味で、将来に対する不安、挑戦する気力や意欲の薄れ、集中力の低下などの影響が現れます。博士は、トラウマ発生を3つの要素として、「身体的安全と病のことで、経済のことで、幽閉されることによって払っている心理的な犠牲」をあげています。そして博士は、「いま私たちは前トラウマ期にいる」と述

べており、「これと同じことが今後起こりますよ」、と警鐘をならしたのです。このメッセージをみたとき、コロナ禍が落ち着いた後が要注意だと思いました。

また、ミネソタ大学のポーリン・ボス名誉教授は 2022 年に、コロナパンデミックス、コロナ禍によって、大切な人・もの・当たり前に行ってきた日常生活を失うことによって、「機会の喪失」を経験したと述べています。そしてこの喪失を「あいまいな喪失」と表現していました。コロナ禍にあつては、これまで普通に行われた学業や部活動・サークルなど友人と交流する機会も奪われました。このようにコロナ前には普通に楽しめた学内活動が制限され、人との交流ができなかったことは、物足りなさ、やり残し感、対人行動への何らかの影響をもたらすのではないかと考えています。

日本赤十字社は、2020 年 4 月の緊急事態宣言から 2021 年 9 月の宣言解除までの期間に若者の心の変化について調査を行い、2021 年 12 月に発表された「新型コロナ禍と若者の将来不安に関する調査」の結果では、「何もしたくない、何かする気が起こらない」という回答が大学生では 49%、「孤独を感じひとりであるのが不安」が 35%という状態になっていることを明らかにしました。無気力や漠然とした不安、孤立感を感じている若者が多く存在することもわかりました。

コロナ禍における大学生のストレス

コロナ拡大以降は、学生相談室を利用する学生は確実に増えているようです。対面による面談に加えて、オンラインや電話による相談を積極的に推進するなど、各大学それぞれ工夫を重ねてきたようです。

それでも長期にわたるコロナ感染症の影響により、学生同士で話し合う、情報を得る、励まし合うなどのコミュニケーションをとる機会は少なく、人間関係を築きにくくなっている点は懸念すべきことであると思います。

猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は、収束を見せています。しかし、私たちはコロナ以前とは若干異なる生活環境の変化を、肌身を通して感じているのではないのでしょうか。行動の制限が解除され、新しい生活が進んで行くなかで、体調不良に陥り、心理的な抑うつ状態が学生たちに散見されるようになりました。大学入学前の高校時代に、本来楽しめるはずであった部活動や学校行事を体験できず、友人との交流は淡泊で距離を取らざるを得ない関係を経て大学に入学してきた学生に対して、大学は対人スキルの習得のための教育的支援としてどのようなプランを提供できるのか、検討していくことが必要となると考えます。

コロナ禍からアフターコロナ時代へ

コロナ大流行から一応の収束が見えたとしても、再び新しい生活に慣れ、適応できるまでに多くの時間がかかることは容易に想像できます。新しい生活様式に合うように、もう一度自分たちで作っていかなくてはなりません。おそらく数年かかるでしょう。アフターコロナへの転換とはそういうことなのです。今回のようなパンデミックのような事態が起こった時に、どう対処していくのかというシナリオは今後の新しいテーマでもあります。それと、収束したからもう終わりと簡単にとらえるのではなく、そのあとのことをどう予測し、対処

するのか、今回の経験を今後にどう生かしていくのか、非常に大切であると思います。

災害被災や犯罪被害を受けた直後は、痛みや悲しみを感じないことがあります。さなかにあっては、電話相談やメンタルクリニックを受診する人が少なかったですが、現在は数ヶ月待ちの状態です。

5月8日をもって新型コロナウイルス感染症の扱いは2類から5類に引き下げられ、さまざまな制限が撤廃されました。マスクの着用は個人の判断にゆだねられ、アクリル板が片付けられています。授業や部・サークル活動がコロナ前と同じ基準で再開されてことになりました。

テレビから流れる映像から、街には人が戻り、賑わいを増し、活気が戻り、日常を取り戻した喜びや解放感を見ることができます。しかし、3年間ずっと抱いてきた緊張感と不安感を拭くことはそう簡単で容易なことではないのです。

大人も子どもも社会も、新たなあり方に慣れ移行していくためには、時間を要する必要があると思います。慣れ親しんだあり方を手放す寂しさや喪失感・・・人の「こころのありよう」は複雑です。今日の話のテーマに深く関連します。

不安や緊張から少し解放されたからといって、平常にはなかなか戻れないということは、2020年6月4日に放映されたNHKスペシャル「アフターコロナ 人に会うのがツライ～科学で解明！心の異変～」という番組のなかで、コミュニケーションと脳や心の関係について解説していました。リモートやオンラインの使用によりコミュニケーションの形は大きく変化しているなかで、「人と接するのが不安」、「対面がストレス」であると対人不安を訴える若者が増えていると報告していました。対人不安を訴える人の増加は、WHO 世界保健機構でも言われていることです。不安障害はコロナ後25%ほど増加しているようです。対人不安・対人緊張は、今後の社会生活や、学校生活のなかに現れてくると考えられます。

危機にあった時の心理的反応

災害などの危機的状況にあった時の心理反応は、スライド10のチェックリスト項目を参考にしてください。睡眠の状況、食事生活、身体やメンタル面の状況などにおこるさまざまな反応を、大規模災害などの「有事の事態、状況」における「自然で正常な反応」とであると捉えることが大切です。

終わりに、これからの学生支援・学生相談について

最後に、これからの学生支援・学生相談のあり方は、スライド11にありますように「質の高い教育をみんなに－SDGs 目標4」を大学における学生支援の趣旨としていくことが必要であると考えます。

特に、これからの学生支援・学生相談においては、個別カウンセリングを中心に置き、誰でも気軽に相談できる相談しやすい相談室であること、一部の学生のためでなく多くの学生が利用できる相談室であることが求められます。そして、新入生を対象とした交流の会などのグループ活動やストレスマネジメントなどの心理教育的ワークショップを開催し、学生の成長を促す役割を担えるとよいかと思います。

【実施日】令和6年11月6日（水曜日）／12月4日（水曜日）

【講師】学長 福田庸之助 先生

「遊びの達人」ワークショップ

1. 目的

本学の令和7年度キャッチコピーは「まなびのトビラを開くおもちゃ箱 あそび×Junshin めざせ！幼児教育スペシャリスト」である。埼玉純真短期大学において2年間学ぶことで、子どもたちと本気で遊べる保育者＝遊びの達人となることができる。

まずは、私たち教職員が“あそびとはどういったものなのか”という原点に立ち戻り、本学の現状と課題を理解した上で“遊びの達人を育てるための取り組み”を学校全体で考えることを目的とする。

2. 内容

第一回 「遊びの達人」を考える

- ① 2029年に「遊びの達人」という切り口で脚光を浴びている埼玉純真短期大学が大々的に新聞で取り上げられたと仮定し、“どういった点が取り上げられたのか”“その時の社会情勢”“保護者、学生、就職先や地域の方は、どのような点で満足しているのか”を考え、未来新聞を作成する。
- ② 未来新聞から抽出した内容を使い、次年度の大学パンフレット（試作品）を作成する。私たち教職員が読み手に対し夢中で説明できるような内容を考える。

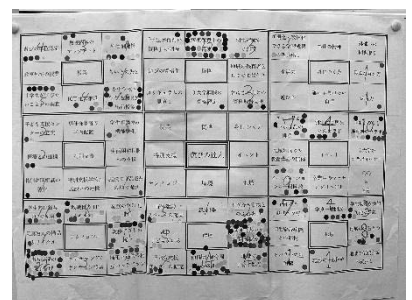
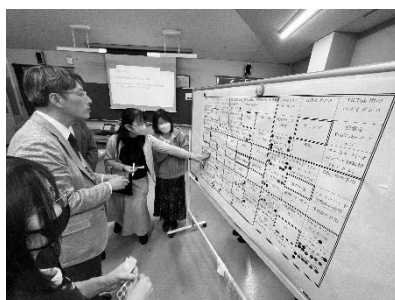
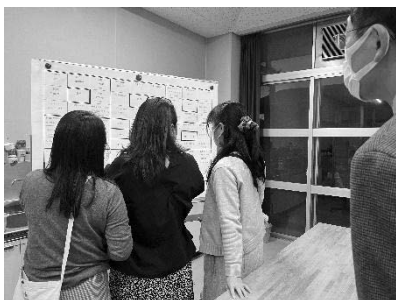
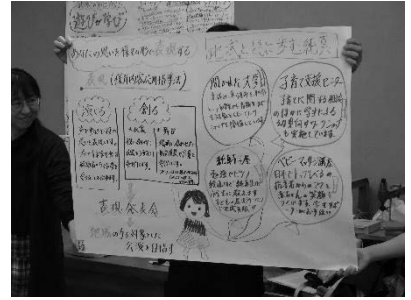
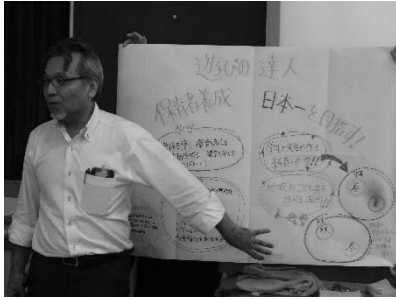
第二回 曼荼羅チャートを使用した目標設定ワーク

- ① 未来新聞、大学パンフレットの作成をもとに、グループごとに曼荼羅チャートを作成し、目標設定を行う。
- ② 他グループの曼荼羅チャートを見て、「本学にとって必要な目標」「取り組みたい目標」など、各々よいと思ったものに投票を行う。

3. まとめ

次年度の目標が設定され、目標の達成に向けた具体的な取り組みが多く挙げられた。「まなびのトビラを開くおもちゃ箱 あそび×Junshin めざせ！幼児教育スペシャリスト」のキャッチコピーのもと、本学からの遊びの達人の輩出に向け、次年度も引き続きワークショップを開催し大学全体で取り組んでいく。

（報告者：FD&SD推進委員会委員長 瀬戸奏）



【実施日】令和6年11月9日（土曜日）

【講師】岡田恭子 先生

第12回研究セミナー 特別支援保育・発達障がいの子どもの持つ親の気持ち

講演

子どもの健康と発達

医療法人 岡田こどもクリニック

理事長 岡田 恭子

講師紹介

平成5年群馬大学医学部卒業。群馬大学小児科関連病院勤務ののち、平成15年に栃木県佐野市で岡田こどもクリニックを開院。平成27年に児童発達支援事業所 SUN-Sano を開設。小児科専門医として、佐野市を中心に子どもの健康や発達に関する診察・相談等を行う。その他、小児科専門医、PCIT 機関内トレーナー、CARETM ファシリテーターとして活躍。

講演概要：

1. 子どもの発達の多様性

子どもの発達は一様に進むわけではなく、リンパ型、神経型、一般型、生殖型と、身体の部位ごとに異なるスピードで成熟していく（スキヤモンの発育曲線）。

- ・ リンパ型は12歳頃に成人を超えて増加し、その後落ち着く。
- ・ 神経型は生命維持に関する部分が早期に成熟し、その後緩やかになる。
- ・ 一般型（体の大きさなど）は生後すぐに急激に成長し、思春期にも再び成長する。
- ・ 生殖型は第二性徴から急激に伸びる。

2. 脳の成熟過程

脳も異なる部位が異なるスピードで成熟する。大脳辺縁系は5～6歳頃から急激に発達して、色々な感情が芽生えていろんなことに興味を持つようになっていく（車でたとえるとアクセル）。その一方で、抑制やコントロールを司る前頭前野はゆっくりと成熟する（車でたとえるとブレーキ）。思春期頃は特に欲望や情動の高まりに抑制系がついていけず、欲求のコントロールが効きにくい。

- ・ 脳幹と間脳は生命維持や三大欲求を司り、生まれたときに既にできあがっている。
- ・ 追って、記憶や感情、快楽、共感などに関与する大脳辺縁系が発達していく。
- ・ 欲望や情動などをコントロールするための大脳皮質（特に前頭前野）は最後に成熟する。

発達の過程で、アクセルとブレーキのバランスが一時期崩れることは自然な現象である。このことを理解したうえで、幼児期にしっかりこの回路を強化しておくよう

なかかわりが大切である（昼間は思いっきり遊ぶ、暗くなったらゆっくり休む、など）。

3. 発達のマイルストーンを知る

認知や運動、言葉、社会性、情緒など、発達を考えるときには様々な切り口があるが、発達を見立てるためにはマイルストーンを知っておくことが重要となる。特に2つの共同注視は重要で、「親が伝えたい意図を読み取れる、親が思い描いているイメージを共有できる（共同注視①）」「自分の興味に他者の注意をひきつけることができる、自分の経験を他者に伝達することができる（共同注視②）」ことの指標となる。

- ・ 泣き声の分化（空腹、眠気、不快感等の状況による泣き分け）
- ・ 表情や情動の共有
- ・ 共同注視①（大人の指差しや視線の先を注視する）
- ・ ジェスチャーや手遊び
- ・ 言語的なコミュニケーション
- ・ 共同注視②（指さしで自分の欲求や関心の対象へ、大人の注意を向ける）

子どもの認知発達の展開には他者との情動的な関係が深く影響しており、子どもの意図にきちんと答えることが大切。基本的には大人側が表情豊かに、やや大げさなくらいに好意的な反応を返してあげることが大事。

4. 感情の発達

赤ちゃんの一番最初は「興奮して泣く」から始まり、それが快／不快に分かれ、2歳頃からはさらに細かく分化していく。しかし、5歳くらいでは相手の不快そうな表情をすべて「怒っている」と認識してしまう、という研究もある。そのため、周囲の大人が丁寧に共感をしたり、感情の描写をしてあげたり、といったことを通して、感情の整理を手伝ってあげることが重要である。

5. 特別支援教育の現状と神経発達症

特別支援教育を受けていない子どもの中でも、特別な配慮を必要としている子どもは増加傾向にあり、決して少ない人数とは言えない。配慮を必要としている子どもの中には、診断がついている子も、ついていない子も含まれる。「障害がある」ということは、支援者側から見て「何かの補いをしてあげたい部分がある」と理解するとよい。

神経発達症（自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠陥多動症(ADHD)、限局性学習症(SLD)）はいずれも「脳の働きが違う」ということ。本人にとって不利益になるかどうかは社会との兼ね合いによる。たとえば同じASDの人の中でも、脳の働きや学習スタイルはもちろん人によって異なる。

6. 自閉スペクトラム症の理解

私たちは普段、「情報を受け取る⇒脳の中で意味を理解する⇒行動する」という一連の流れで行動しているが、ASD の人の脳ではそれぞれのプロセスに違いがある。ASD の人は潜在的学習（情報の全体を大きくとらえて理解する）よりも明示的学習（狭い範囲のことを深く理解する）のほうが得意である。情報の受け取り方が違うために、行動面でも様々な違いが出てくる。

- ・ 視線が合いにくい
 - ・ 暗黙の了解がわからない、言葉を字義通りに理解する
 - ・ ルーティンでの学習が得意
 - ・ はっきりしていないこと、経験がないことなどは苦手
- ただし、ASD の特徴の現れ方は一人ひとり違う。

7. 自閉スペクトラム症の学習スタイルに合わせた工夫

子どもが言われたことの意味を推測しなくても伝わる言葉で「わかりやすく伝える」ことが有効。

- ・ 何やってるの！！⇒出かける時間なので、ゲームの電源を切ってください
- ・ いい加減にきなさい！！⇒（走り回らないで）手をつないでください
- ・ そこに座ってくれる？⇒椅子に座ってください
- ・ 危ないでしょ！⇒（椅子に立たないで）座ってください

他にも、目に見える形で説明をすること（絵カード、コミック会話、ソーシャルストーリーズなど）や、具体的にその場で起こっているやり取りの中で「こういうときは〇〇って言うんだよ」と教えることもポイントとなる。子どもの特性に合わせて、「できる」「できた」「わかった」という体験を積み重ねていってほしい。

8. 診断をする意味

- ・ 子どもの特性を知る、学習スタイルを知る
- ・ 誤学習を防ぐ
- ・ 大人が困っているかどうかではなく、本人の不安や混乱を解消するために
- ・ 子ども自身が自分のことをする助けとして
- ・ 信頼できる他者（大人）の存在も重要

9. 子どもたちの健康

A) 睡眠

- ・ 睡眠は記憶に関わり、前頭前野の活動にも影響
- ・ 睡眠不足は肥満のリスク因子となる
- ・ 就寝時刻の遅い、睡眠時間の短い子どもほど学業成績が悪い
- ・ 起きたら日光を浴びさせる

B) 食事

- ・ 医の前に食あり、食の前に農あり
- ・ 旬のもの、その地域のもの、自分にあったものを
- ・ 幼児期に味覚が形成されるため、4 歳くらいまでに様々な味を経験させることが重要
- ・ 重ね煮（鍋の一番下に昆布や海藻を入れ、その上にきのこ類、さらに野菜を重ね、中火から弱火で煮る）で簡単に汁物が作れる

C) 遊び

- ・ 遊び：自発性に基づいていて、「楽しい」と思えること
- ・ 遊びは、実体験を通しての学びの機会でもある
- ・ 遊びを通して、子どもと養育者の基盤が作られる
- ・ 遊びの中で大切なのは、子どもにリードを取らせること

10. PCIT（親子相互交流療法）より

子どもにリードを取らせるときに避けるスキル

- ① 命令（子どもから主導権を奪ってしまう）
- ② 質問（答えを求める＝会話の主導権を握ってしまう）
- ③ 禁止や否定的な言葉（否定的な言葉で問題が改善することはあまりない）

子どもにリードを取らせるときに使うスキル

- ① 具体的にほめる
- ② 繰り返す
- ③ 行動を言葉にする（実況中継）

上記に「感情を言葉にする」を加えるとよい

- ・ 感情をコントロールするためには、感情を知ることが必要
- ・ 感情を否定せず、共感する
- ・ 同調はしないが、カームダウンの手助けをする
- ・ 大人側も自分の揺れている気持ちを落ち着けるようにして、手本を見せる

（報告者：こども学科助教 山田耕平）

1. 特別支援教育の現状

文部科学省の調査（2022年）によると、通常学級に在籍しながら学習面や行動面に困難を抱える児童生徒の割合は増加傾向にある。特別支援教育を利用する児童生徒数も増え続けており、特別支援学校や特別支援学級、通級指導を受ける児童生徒数は全国的に増加している。

埼玉県においても同様の傾向が見られるが、特別支援学級の在籍割合は2.49%（全国平均4.01%）と低く、支援が十分に行き届いていない可能性が指摘されている。羽生市においても特別支援教育のニーズが高まっており、通級指導教室の新設が進められている。

2. 子ども支援センターの現状と課題

本センターには、学校・スクールカウンセラー・教育委員会などからの紹介を受けた相談が寄せられている。相談件数は月5件前後であり、知能検査の実施希望も多い。主な課題は以下の3点である。

①インフォームドコンセントの明確化

口頭のみで行っていた説明を書面化し、相談者との合意を明確化することとした。

②人員不足

相談員は本学教員が兼務しており、対応可能なケース数に限りがあるため、相談業務を専門とする職員の雇用や、相談の有料化を検討している。

③学生との交流の不足

センター利用者と学生との接点が少ないため、学内におけるセンターの認知度が低い。大学内に設置されている点を活かし、学生と子ども双方にとって学びの場となる体制を整備する。

3. 今後の展望

センターの役割を明確化し、地域ニーズに対応できる体制を強化する必要がある。特に、インフォームドコンセントの徹底、人員体制の見直し、学生との交流機会の創出を通じて、より実効性のある支援を目指す。

埼玉純真短期大学 子ども支援センターの 現状と課題

子ども支援センター委員会
(発表者：山田 耕平)

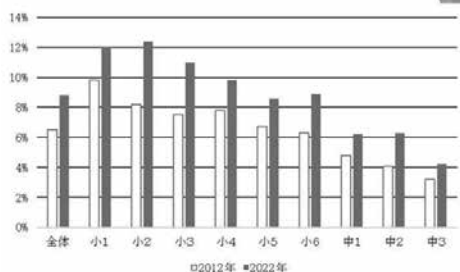
はじめに

- ▶ 本学子ども支援センターは2024年3月で設立11周年
- ▶ これまで、地域のニーズに応えるべく、発達障害や不登校等、支援が必要な地域子どもたちやその保護者を対象に支援を行ってきた
- ▶ 本研究では、より地域のニーズに沿ったセンター運営を行っていくために、特別支援教育の現状について概観し、当センターの役割・課題について論じた

特別支援教育の現状

「学校生活に困難を抱える子ども」の増加

- ▶ 小中学校の担任が「学習面や行動面など、学校での生活に困難を抱えている」と感じる児童生徒は、通常学級の中に**おおむね1～2人程度の割合**で在籍（文部科学省、2022）
- ▶ 10年前の同様の調査と比べ、その割合は増加傾向



学年ごとの学習面または行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合
(文部科学省(2012,2022)「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」を基に作成)

全国の現状

- ▶ 特別支援教育を利用する児童生徒数は増加傾向
- ▶ 特別支援学校数：
全国1,178校、在籍児童生徒数151,362人（R5年）
▶ 在籍児童生徒数は10年前の約**1.14倍**
- ▶ 特別支援学級：
全国78,964学級、在籍児童生徒数372,795人（R5年）
▶ 在籍児童生徒数は10年前の約**2.1倍**
- ▶ 通級による指導を受けている児童生徒数：
全国183,879人（R3年度末時点）
▶ H25年度と比べ約**2.3倍**

全国の現状

- ▶ 通級による指導の対象として発達障害（自閉スペクトラム症，学習障害，注意欠陥多動性障害）が規定されたH18年以降、発達障害のある児童生徒数は毎年増加傾向
- ▶ R3年度においては、通級指導を受ける児童生徒数のうちの過半数を発達障害をもつ児童生徒が占める

埼玉県の現状

- ▶ 全国的な傾向とおおむね同様
- ▶ 特別支援学校：
県内56校、在籍児童生徒数8,801人（R5年）
 - ▶ 在籍児童生徒数は10年前の約1.3倍
- ▶ 特別支援学級：
県内2,919学級、在籍児童生徒数13,466人（R5年）
 - ▶ 在籍児童生徒数は10年前の約2.3倍
- ▶ 通級による指導を受けている児童生徒数：
6,621人（R5年5月）
 - ▶ 10年前の約2.2倍

埼玉県の実状

- ▶ 県内の児童生徒数の総数からみると、特別支援教育を利用する児童生徒数の割合が少ない
- ▶ 特別支援学級の在籍児童生徒数の割合：**2.49%**
(全国平均4.01%、東京都に次いで全国で2番目に低い水準)
- ▶ 通級による指導を受けている児童生徒数の割合：**1.24%**
(全国平均1.92%)

⇒ 支援が必要な子どもに十分に支援が行き届いていない可能性

- ▶ 特別支援学校：1校
- ▶ 特別支援学級：小学校20学級、中学校8学級
- ▶ 通級指導教室：
 - 難聴・言語障害通級指導教室2教室
 - 発達障害・情緒障害通級指導教室3教室
 - ▶ R4年度の在籍児童生徒数92名(10年前の約2.7倍)
 - ▶ 利用者増に伴いH28年、R3年に通級指導教室を新設
- ▶ 特別教育支援に関するニーズはますます高まっている

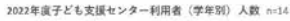
本学子ども支援センターについて



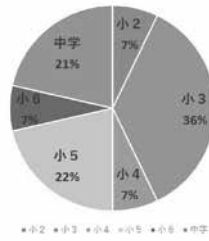
2022年度子ども支援センター利用者（学年別）人数 n=14

学年	人数
小2	1
小3	5
小4	1
小5	3
小6	1
中学生	3
合計	14

Legend: 小2, 小3, 小4, 小5, 小6, 中学



学年	人数
小2	1
小3	5
小4	1
小5	3
小6	1
中学生	3
合計	14



- ▶ 学校やスクールカウンセラー、市役所、教育委員会などからの紹介が多い
- ▶ 子どもをもつ保護者はもちろん、近隣の小中学校からの問い合わせも
- ▶ 電話相談と対面での相談を含め、今年度はおおむね月に5件前後の相談
- ▶ 「学校等で知能検査を受検するには時間がかかるので、センターで施行してほしい」という希望も

- WISC-Ⅳ知能検査
- WPPSI知能検査
- 田中ビネー知能検査Ⅴ
- K-ABCⅡ
- ITPA 言語学習能力診断検査
- TK式ノンバーバル検査
- PVT-R絵画語の発達検査
- LCスケール言語コミュニケーション発達スケール
- ベンダーゲシュタルトテスト 等

日常生活を評価する検査、
保護者の困りごとを可視化
できる検査があるとよい？

今後の課題と取り組み

▶ インフォームドコンセント（当センターの機能や役割の説明と、相談者利用からの同意）について、従来は口頭のみで行っていた



- ▶ 書面を作成し、明確化
(トラブルを未然に防ぎ、相談者と相談員の双方を守るため)

[illegible]

2. 人員不足

- ▶ 本学教員が兼務で当センターの相談員となっており、受け持つことができるケース数が少ない
- ▶ 相談希望が集中すると、相談待機者が生じてしまう



- ▶ 相談業務を主とする職員の雇用の検討
 - ▶ 現在無料となっている相談を有料化？

3. 学生との交流

- ▶ 当センターを利用する子どもが学内を訪れる機会がある一方で、学生との接点がほとんどなく、センター自体学生にほとんど認知されていない



- ▶ 当センターが大学内に位置づけられていることを活かして、子どもと学生の双方に対して学びの場を提供できる体制整備を目指す

文献

- ▶ 中央教育審議会(2005)「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」
- ▶ 羽生市学校教育部教育総務課(2023)「令和5年1月定例羽生市教育委員会 議事録」
- ▶ 羽生市企画財務部企画課(2024)「令和5年度版 統計はにゅう」
- ▶ 文部科学省(2012,2022)「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」
- ▶ 文部科学省(2023)「令和3年度 通級による指導実施状況調査」
- ▶ 文部科学省(2023)「令和5年度学校基本調査」
- ▶ 埼玉県教育庁義務教育指導課(2024)「令和6年度埼玉県内市町村（さいたま市除く）別の特別支援学級・通級指導教室設置校一覧【令和6年6月25日更新】」
- ▶ 埼玉県教育庁県立学校部特別支援教育課(2024)「埼玉の特別支援教育—令和5年度—」

ご清聴ありがとうございました



【発表日】 令和 6 年 11 月 27 日（水曜日）

【発表者】 実習指導部長 加藤房江

実習指導について

1. 保育実習指導の見直しの背景

令和 6 年 8 月 22・23 日に全国保育士養成協議会主催の「実習指導者認定講習」を受講。

各養成校最低 1 名の受講が求められ、今後は実習委員会の教員も受講し、共通理解を深める方針。

講義では、各養成校が「ミニмумスタンダード（最小限の基準）」に近づく必要があると強調。

保育実習指導の基礎条件を整備し、標準的事項を共有することが不可欠。

2005 年の「保育実習のミニмумスタンダード」策定以降、2018 年の保育所保育指針、2019 年の保育士養成課程改訂を反映した形で現行の基準が編集されている。

2. 実習の目的

保育実習は、習得した知識・技能を基礎に、総合的な応用能力を養うことを目的とする。

- 実際の子どもの姿を学ぶ
- 子どもとの関係構築を体験
- 保育者の専門性に触れる
- 保育の過程を体験

3. 実習訪問指導と記録のデジタル化

- 実施期間中、実習指導者は指導内容を記録。令和 7 年度より PC で管理。
- 訪問指導は「専門家としての指導」を意識し、単なる巡回訪問とならないよう徹底。
- 「実習訪問指導報告書」「実習の評価票」を見直し、厚生労働省の「教科目の教授内容」に基づいた評価票を作成。
- 指導案や日誌の提出形式（手書きまたは PC 作成）を学生が選択できるよう調整。

4. 実習連絡協議会の開催

令和 7 年 3 月 7 日（金）に保育所・施設・幼稚園・こども園の先生方と実習連絡協議会を開催し、情報共有を図る。

5. まとめ

教職員全体で共通理解を深め、地域と大学を繋ぎながら、学生のサポート体制を強化していく。

FDSD研修 実習指導について

実習指導部長

加藤 房江
2024. 11. 27



保育実習指導の見直しの背景

- 令和6年8月22・23日に
全国保育士養成協議会主催の
実習指導者認定講習を受講した。
- 各養成校最低1人は受講者がいるようにとのこと。
- 今後は、実習委員会の先生方にも受講していただき、
共通理解できるようにしていきたい。
- そこでの講義では、各養成校は、ミニмумスタンダード
(最小限の基準)に近づけて欲しいとのこと。



～保育実習指導のミニмумスタンダード～

- 保育士養成にとって、重要な保育実習指導に関して、
実習指導の基礎的条件を整備し、その標準的な事項を
共有していくことが不可欠であるとして、報告書
「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ～保育実習
指導のミニмумスタンダード～」が2005(平成17)年に
策定された。

～保育実習指導のミニмумスタンダード～

- 2年後、「保育実習のミニмумスタンダード～現場と
養成校が協働して保育士を育てる」が全国保育士養成
協議会編で刊行され、多くの養成校の実習指導教員に
より指導の基本として活用されてきた。
- 現在の「保育実習のミニмумスタンダード」は、
2018(平成30)年施行の保育所保育指針、
2019(平成31)年施行の保育士養成課程を視野に
入れて編集したものである。

保育実習実施基準では

- 実習指導者は、実施期間中に、学生に指導した
内容をその都度、記録すること。
- 今後(令和7年度から)は、PCを使用して記録し
ていただき、管理していけるようにしたいと考えて
いる。
- 訪問指導の際は、「専門家ではないので・・・」と
手土産だけを渡すことに
ならないようにすることも大事。



- 実習の訪問指導に行かれる先生は、
実習を理解して訪問指導をしてほしい。
(巡回訪問→訪問指導)



実習の目的

・保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。

- ・理論では語れない実際の子どもの姿を学ぶ
- ・子どもとの関係構築の体験
- ・保育者の専門性に触れる
- ・保育（保育の過程）の体験



書類の見直し

実習訪問指導報告書

- ・幼稚園実習巡視報告書
- ・保育所実習（前半・後半）巡視報告書

プリント参照



書類の見直し

実習の評価票

厚生労働省の各科目の教授内容の標準的事項を示した「教科目の教授内容」を基にした評価票の作成例があるので、それをベースに作成した。

- ・実習の評価票
- ・評価のポイント例

プリント参照



実習の手引き見直し

- ・実習の目的・課題を明確化
- ・見直した評価票への変更
- ・評価のポイントの例の記載

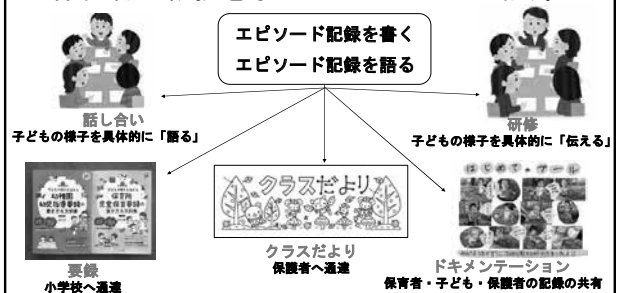


エピソード記録について

- 1 エピソード記録とは
 - ・保育の中の具体的な場面や関わりについて、子どもの様子、やりとり、会話などを含めて記録することで、子どもや保育のあり方を具体的に考察することを目的とした記録方法。
- 2 なぜエピソード記録を記入するのか？
 - ・実習の学びを深めるため
 - ・自分の問題関心が高いテーマである&深い学びを促す可能性
 - ・保育現場の実態に即した記録方法であるため
 - ・研修、要録、クラスだより、ドキュメンテーション など



保育者の職務を学こととエピソード記録



エピソード記録の書き方の指導

1. 5W1Hの情報を意識します。
2. 非言語情報も文章にして表現します。
3. その他、気づいたこと、感じたこと、考えたことを述べます。



その場にいなかった人がそのエピソードを読んだ時に、その情景が思い浮かぶような文章を意識しましょう



- 幼稚園の応用実習と保育所実習では、1週間に1枚、提出するように指導している。



その他

- デジタル化に向けて、今後の授業では、指導案や日誌の記述など、手書きで良いか、PCで作成したものを提出したいのか学生に選ばせていけたらと思い、園の方にも発信したいと考えている。

- なぜ実習をするのかという意識づけの指導が大切。

園の先生方との実習連絡協議会

- 今後、保育所・施設・幼稚園・こども園の先生方と実習連絡協議会を開催し、情報共有をしたいと考えている。

- 令和7年3月7日（金）開催



実習連絡協議会の内容

- 受付 13:40
- 全体会 14:00～14:20
- 分科会 14:30～16:00

- 本学の実習指導の内容
- 評価について
- 意見交換・情報共有



- 教職員全体で、共通理解を図り、地域と大学を繋ぎながら。学生のサポートができるようにしたいと思います。

- ご協力よろしくお願いします。



ご清聴ありがとうございました。

【実施日】令和6年12月18日（水曜日）

【講師】法人事務局長 的野 陽 先生

ハラスメントゼロの職場を目指して

1. 目的

本研修は、学生にとって安心して勉学に励むことができる環境づくり・教職員にとって働きやすい環境づくりを目的とし、ハラスメントに関する正しい知識を身に付け、大学などの教育現場での事例をもとにどのようなことがハラスメントにあたるのかを学ぶ。そして、ハラスメントが起きないようにこれからできることを考えるとともに、起きてしまった場合の相談体制について確認をし、適切な対応がとれるようにする。

2. 内容

(1) 事前アンケートの実施

教職員に向けて事前アンケートを実施

回答期間 11月25日（月）～11月29日（金）回答数 20名

研修で知りたい内容として上がった内容…ハラスメントの定義、ハラスメントと指導の境界線、大学内の相談体制、事例、留意点

(2) ワークショップ

大学現場での事例動画を視聴し、以下の内容について意見交換を行う。

- ・教授のどの行為がハラスメントに該当するのか
- ・なぜこの行為が問題だと思うのか
- ・教授の“指導の一環”という主張について

(3) ハラスメント相談体制

- ①相談窓口を明確にする。
- ②相談窓口、相談員は複数置く。
- ③相談窓口、相談員の名前を明示する。
- ④相談窓口の場所を知っておく。

3. まとめと今後の課題

ハラスメントは複雑な要因が絡み合って起きるものであり、単純な理屈だけで説明することは難しいが、根底にあるのは「人間関係の歪み」「相互理解の不足」であることがほとんどである。ハラスメントを防ぐためには、学生と日頃からコミュニケーションを取り、信頼関係を築くことが重要であるとの声が多く上がった。そして、組織としても相談体制の強化等、悩む人が声を上げられる仕組みを整える必要がある。

これからも学生の状況は刻々と変わっていく中で、その時々合った対策や環境づくりを行うため、引き続きハラスメントをテーマとする研修を行っていきたいと考えている。

（報告者：FD&SD推進委員会委員長 瀬戸奏）

1. 目的

これまで教務委員会でシラバスの見直しを行ってきた中で、共通して抜け落ちている点が散見された。そこで、2025年度のシラバス執筆にあたっての留意点と、同年度より改定されるディプロマポリシーに基づくシラバスの記載方法の変更点について、共通理解を深めるため発表した。

2. 留意点

① カンマの統一 「 、 」

② フィードバックの方法について必ず明記

例) レポートや課題にコメントを入れてフィードバックを行う

実習先からの評価表を元にフィードバックを行う

リアクションペーパーを活用してフィードバックを行う

他

③ 定期試験の表記の仕方の留意点

- ・定期試験に試験内容を表記する時には、あくまでも定期試験期間中に行うレポート・筆記試験を実施する場合に記入する。

- ・小テスト・課題提出等は定期試験の欄ではなく、評価の方法に記入し、定期試験期間中に行わない試験やレポート課題で評価を行う場合は、“なし”と記入。

④ 評価の方法

- ・定期試験を受けなくても単位が取れてしまうような配分はしないよう評価の割合に注意する。

- ・授業態度、欠席日数を評価の対象にしないことが原則。

- 「授業参画度」であれば良いが、評価の方法として学生が理解できるようにすることが必要。

- ・評価の方法とループリックを対応させる。

3. ディプロマポリシーに基づいた学習成果の記入

学科の卒業認定・学位授与の方針との関連の項目、【知識・理解・技能】・【思考・判断・表現】・【関心・意欲・態度】の三つのうち、どの項目に自分の授業が該当するか○をつける。

4. その他は、教務係の作成した留意点を参照のこと

2025年度 シラバスを執筆する際の留意点

・・・抜け落ちがちな点について・・・

- ①カンマの統一
- ②フィードバックの方法
- ③定期試験の表記の仕方
- ④評価の方法（定期試験の割合・ルーブリック・欠席や授業態度等）
- ⑤ディプロマポリシーにおける学習成果の記入（新書式）

教務係

塚越亜希子
布施由起

基本的な留意事項

教務係から添付書類

「シラバスの見本・フォーマット」を参照

その他、見落としがちな点について

- ①カンマを統一してください
「、」 ←は使用しない

②フィードバックの方法の明記

授業の方法 講義、グループでの演習やワーク。單元ごとの小レポートにてフィードバックを行う。

フィードバックの方法

例) レポートや課題にコメントを入れてフィードバックを行う

実習先からの評価表を元にフィードバックを行う

リアクションペーパーを活用してフィードバックを行う

他

③定期試験の表記の仕方

定期試験に試験内容を表記する際には、
あくまでも「試験期間中」レポート・筆記等
（注意）
小テスト・課題提出は定期試験の欄ではなく、評価の方法に記入。
試験期間中に行わない試験やレポート課題で評価を行う場合は、「なし」と記入

定期試験：筆記

④評価の方法 (定期試験の割合・ルーブリック・欠席や授業態度等)

- ・定期試験を行う際は、評価の割合にご確認ください
例) 定期試験35% 課題30% 授業参画度35%
→定期試験を受けなくても単位が取れてしまう
- ・授業態度・欠席日数を評価の対象にしないことが原則
→「授業参画度」であれば良いが、評価の方法として学生が理解できるようにすることが必要
- ・評価の方法とルーブリックを対応させる
→ルーブリックを活用していることを必ず明記

⑤ディプロマポリシーにおける学習成果の記入（新書式）

非常勤の先生で、○を入れる場所が分からない方は、
本学教務係の方で入れさせていただきます。

【学修の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関係性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の現場やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応力策を考案することができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを客観的に判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の現場やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

以下の三つの領域の中から、あてはまる箇所には○を入れる。

【知識・理解・技能】
【思考・判断・表現】
【関心・意欲・態度】

【発表日】令和7年1月26日（水）

【発表者】進路支援委員会 片口 桂

過年度卒業生に対するアンケートの結果を基にした改善について及び
卒業生の進路先への意見聴取を基にした改善について

1. 研修の概要

- 目的1：卒業生のアンケート調査及び、進路先へのアンケート調査の結果より、令和5年度と令和6年度の比較から、学生に求める保育者としての力を考察する。
- 目的2：目的1の結果と厚生労働省（ハローワーク）の調査と比較し、今現場で求められる保育者の力の理解を深め、学生指導・教育に活かせるよう共通認識をする。

2. アンケートの概要

アンケート項目：15項目
配布日：令和6年5月31日（金）
回収期限：令和6年9月22日（日）

3. 結果

- (1) 卒業生が就職した施設からのアンケートの結果より、「資質」「技術」「知識」「社会性」どの項目も施設としての評価は高く、卒業生が保育者として適正を身に付け定着していることが伺えた。その中でも、「文章力」を最も重視していることが示唆された。
- (2) 厚生労働省（ハローワーク）の全国調査「保育士 - 職業詳細 | job tag（職業情報提供サイト（日本版 O-NET））」の結果と(1)を比較した結果、保育者として必要とされる仕事能力（スキル）「読解力・説明力・文章力」と卒業生の就職先施設が重要視していると考えられる「文章力」の一致が見られた。

4. 課題

アンケートの内容「保育者の資質」の項目具体的に提示する。
アンケートの回答の評価測定の精度を上げるため4～5段階の定量調査とする。
アンケート回収率を上げるようQRコードによるGoogleアンケートへの変更を行う。

5. 考察

結果から、卒業生のみならず、保育者に今求められている力の一つに「文章力」いわば「語彙力」が必要とされていることが示唆された。「語彙力」は保育者としてのみならず、社会人としてのコミュニケーション能力にも必要となる力と考えられる。

今後、学生教育の中で、学生のアウトプットする力を磨いていくことで、語彙力、文章力が上がっていくと思われる。今回の結果を授業や学校生活の学生指導の中に活かしていけるよう、学校として更なるブラッシュアップを行っていく。

以上

『過年度卒業生に対する
アンケート結果を基にした改善について』
『卒業生の進路先への意見聴取を基にした
改善について』

進路支援委員会
2025年 2月 26日(水)

R.6年度 マッチングフェア アンケート回収状況

配布日	R.6.5.31
回収期限	R.6.9.22
回収方法	郵便・FAX・当日持参
対象	3年分内定園+現1.2年の実習園を含めた7年分実習先 (現1.2年と関わる地域に修正し発送)

内訳	幼稚園	保育所	こども園	施設	合計	回収率
配布数	88	221	153	34	496	
回答数	19	39	12	8	78	15.73
有効回答数	19	39	12	8	78	100

卒業生の進路先（マッチングフェアの案内園）へのアンケート結果を基にした分析

1. 令和5年度、令和6年度との比較から見る
学生に求められる保育者としての力
2. 厚生労働省の調査から見る保育者に必要なスキル

アンケート項目1

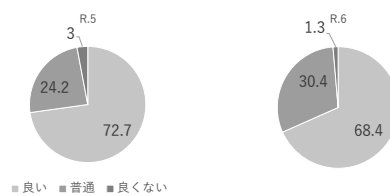
資質	心身の健康
	明朗・笑顔
	優しさ・思いやり
	創造性
技術	文章力
	ピアノ・歌遊び・手遊びなどの表現
	ものづくり（自然・教材研究）
	運動技術

アンケート項目2

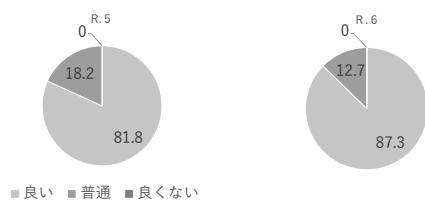
知識	子どもや対象者の発達理解
	安全・環境設定
	優しさ・思いやり
	保健・健康
社会性	コミュニケーション
	言葉遣い・マナー・態度
	責任感

資質

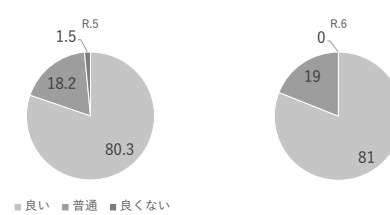
心身の健康



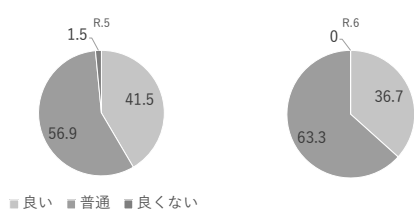
明朗・笑顔



優しさ・思いやり

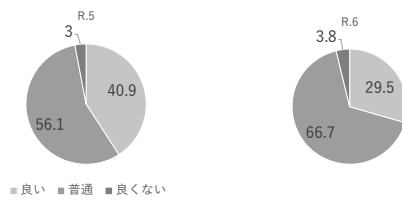


創造性

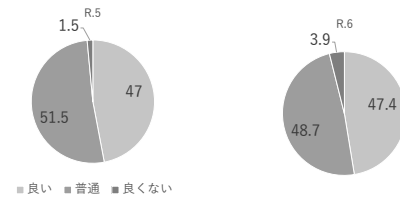


技術

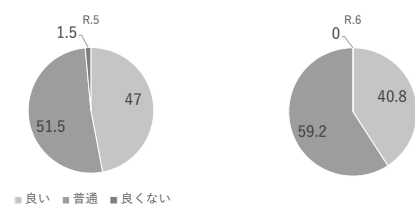
文章力



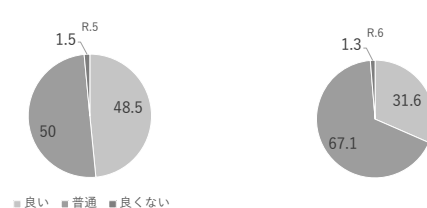
ピアノ・歌遊び・手遊び等の表現



ものづくり

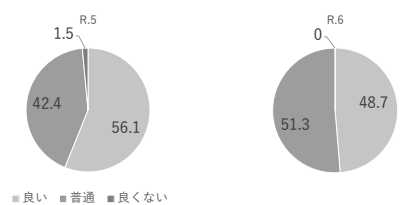


運動技術

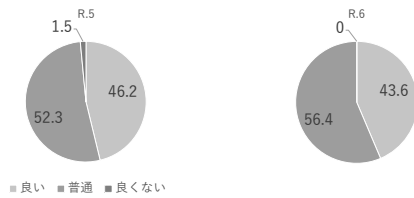


知識

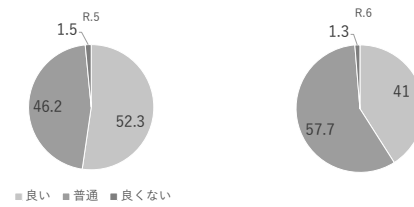
発達理解



安全・環境設定

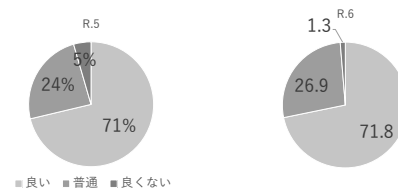


保健・健康

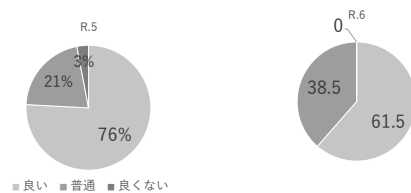


社会性

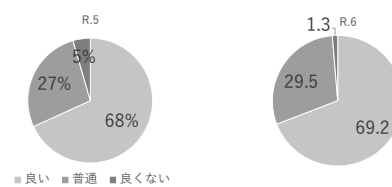
コミュニケーション



言葉遣い・マナー



責任感



埼玉純真短期大学の求人数

1. 求人数

	幼稚園	保育園	認定こども園	施設	合計
令和5年度	171	521	199	66	957
令和6年度	150	634	197	58	1039

2. 求職者数

	求職者
令和5年度	131
令和6年度	122

3. 有効求人倍率

	倍率
令和5年度	7.3
令和6年度	8.5

注) 18歳以下については令和6年度は2月20日現在

厚生労働省の調査から 求められる保育者の力を見える

・保育士 - 職業詳細 | job tag (職業情報提供サイト (日本版O-NET))

これからの課題

- ・学生は希望すれば、ほぼ希望通りの就職・進学ができる環境にある
- ・一方で離職率は調査していないが、入職した時の思いと、いざ働き始めた時のギャップが大きい学生もいる。
- ・各施設と学生のミスマッチは0にはならないが、0を目指し、キャリアガイダンスを行い、学生がめに見える形で社会に出て働くこと、保育者になるということに夢を持って臨めるよう支援していきたい。

私たち、教職員が情報共有を行いながら、学生を社会の担い手として送り出せる喜びを分かち合いましょう

ご清聴ありがとうございました。



【発表日】 令和 7 年 3 月 26 日（水曜日）

【発表者】 教務委員会 塚越亜希子・FD&SD 推進委員会 瀬戸 奏

授業改善にむけた「授業評価アンケート」のデータ活用

1. 目的

本学の授業の学生満足度を知るとともに、結果をもとに教員自身が授業の在り方について考える。

2. 方法

本学において、令和 5 年度後期に学生（1・2 年生）を対象に実施した「授業評価アンケート」と、令和 6 年度後期の同アンケート（1・2 年生）結果をもとに、学生の学習意欲や授業に対する満足度を比較し検討を行う。アンケートの各項目は「思う」「まあまあ思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「思わない」等の 5 件法とし、令和 5 年度と令和 6 年度では学生数が異なることからパーセンテージで比較することとした。

3. 結果

令和 5 年度後期と令和 6 年度後期の「授業評価アンケート」を比較した結果、「熱心に授業に取り組んだか」「自主的な学習をしたか」という学習意欲に関する項目は、令和 6 年度の数値の方が高いことがわかった。しかし、「授業の欠席回数」は「3 回」「4 回以上」と回答した学生が増えている。

「内容がまとまっていて、よく理解できたか」「興味深く、関心が持てたか」「教員の熱意が感じられ、充実したか」「話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか」「進め方が適切であったか」「教材が適当であったか」「満足するものであったか」という授業内容に関する項目は、全ての項目において「思う」と回答した学生が増え、数値が高いことがわかった。

4. 考察と今後の課題

令和 5 年度と比較し、令和 6 年度は学生の学習意欲が高まっていることがわかった。一方で、欠席回数の多い学生が増えているため、授業担当教員とクラス担任が連携し、個別に指導を行う必要があると考える。

授業に対する評価についてはどの項目においても高まっており、教員による日々の研究や、学生からのコメントを受けて授業改善に努めた成果が見られた。しかし、一定数改善が必要であるという回答も見られた。今回実施したアンケートの結果や教員による相互授業参観を活用し、学生が満足できる授業について引き続き研鑽していく。

授業改善にむけた 「授業評価アンケート」のデータ活用

令和7年3月26日(水) FD&SD発表
教務委員会 教務部長 塚越亜希子
FD&SD推進委員会 委員長 瀬戸奏



授業の欠席回数

令和5年度 後期	質問1	何回欠席したか					合計
	評価基準	0回	1回	2回	3回	4回以上	
	件数	1308	862	425	138	54	
	比率	46.93%	30.93%	15.25%	4.95%	1.94%	100.00%

令和6年度 後期	質問1	何回欠席したか					合計
	評価基準	0回	1回	2回	3回	4回以上	
	件数	975	693	342	163	71	
	比率	43.45%	30.88%	15.24%	7.26%	3.16%	100.00%

令和5年度…「3回」4.95%、「4回以上」1.94%



令和6年度…「3回」7.26%、「4回以上」3.16%

3回以上の欠席者が増えていることを踏まえ、改善に努めたい

熱心に授業に取り組んだか

令和5年度 後期	質問2	熱心に授業に取り組んだか					合計
	評価基準	はい	まあまあ	どちらとも いえない	あまり取り 組まなかった	いいえ	
	件数	1980	663	120	11	13	
	比率	71.04%	23.79%	4.31%	0.39%	0.47%	100.00%

令和6年度 後期	質問2	熱心に授業に取り組んだか					合計
	評価基準	はい	まあまあ	どちらとも いえない	あまり取り 組まなかった	いいえ	
	件数	1846	324	54	11	9	
	比率	82.26%	14.44%	2.41%	0.49%	0.40%	100.00%

令和5年度…「はい」71.04%



令和6年度…「はい」82.26%

授業への意欲は高まっている傾向にある

自主的な学習をしたか

令和5年度 後期	質問3	自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか					合計
	評価基準	はい	まあまあ	どちらとも いえない	あまり取り 組まなかった	いいえ	
	件数	1595	725	304	92	71	
	比率	57.23%	26.01%	10.91%	3.30%	2.55%	100.00%

令和6年度 後期	質問3	自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか					合計
	評価基準	はい	まあまあ	どちらとも いえない	あまり取り 組まなかった	いいえ	
	件数	1523	425	176	72	48	
	比率	67.87%	18.94%	7.84%	3.21%	2.14%	100.00%

令和5年度…「はい」57.23%



令和6年度…「はい」67.87%

自主的に学習に取り組む学生が増えている

授業内容がまとまっていて、よく理解できたか

令和5年度 後期	質問4	授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか					合計
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	
	件数	1848	687	194	36	22	
	比率	66.31%	24.65%	6.96%	1.29%	0.79%	100.00%

令和6年度 後期	質問4	授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか					合計
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	
	件数	1763	338	80	33	30	
	比率	78.57%	15.06%	3.57%	1.47%	1.34%	100.00%

令和5年度…「思う」66.31%、「思わない」0.79%



令和6年度…「思う」78.57%、「思わない」1.34%

授業の内容に関心が持てたか

令和5年度 後期	質問5	授業の内容が興味深く、関心が持てたか					合計
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	
	件数	1863	684	190	27	23	
	比率	66.85%	24.54%	6.82%	0.97%	0.83%	100.00%

令和6年度 後期	質問5	授業の内容が興味深く、関心が持てたか					合計
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	
	件数	1745	350	78	34	37	
	比率	77.80%	15.60%	3.50%	1.50%	1.60%	100.00%

令和5年度…「思う」66.83%、「思わない」0.83%



令和6年度…「思う」77.80%、「思わない」1.60%

教員の熱意が感じられたか

令和5年度 後期	質問6	教員の熱意が感じられ、充実したか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1946	611	167	37	26	2787
	比率	69.82%	21.92%	5.99%	1.33%	0.93%	100.00%

令和6年度 後期	質問6	教員の熱意が感じられ、充実したか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1821	297	79	17	30	2244
	比率	81.15%	13.24%	3.52%	0.76%	1.34%	100.00%

令和5年度…「思う」69.82%、「思わない」0.93%



令和6年度…「思う」81.15%、「思わない」1.34%

教員の話し方や声の大きさが適当であったか

令和5年度 後期	質問7	教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1930	613	182	35	27	2787
	比率	69.25%	21.99%	6.53%	1.26%	0.97%	100.00%

令和6年度 後期	質問7	教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1818	300	80	21	25	2244
	比率	81.02%	13.37%	3.57%	0.94%	1.11%	100.00%

令和5年度…「思う」69.25%



令和6年度…「思う」81.02%

授業の進め方が適切であったか

令和5年度 後期	質問8	授業の進め方が適切であったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1861	641	211	50	24	2787
	比率	66.77%	23.00%	7.57%	1.79%	0.86%	100.00%

令和6年度 後期	質問8	授業の進め方が適切であったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1766	326	84	35	33	2244
	比率	78.70%	14.53%	3.74%	1.56%	1.47%	100.00%

令和5年度…「思う」66.77%、「思わない」0.86%



令和6年度…「思う」78.70%、「思わない」1.47%

教材や教具の使用が適当であったか

令和5年度 後期	質問9	教材(テキスト・視覚教材・板書・配布資料など)・教具(設備使用)などが適当であったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1853	662	210	36	26	2787
	比率	66.40%	23.75%	7.53%	1.29%	0.93%	100.00%

令和6年度 後期	質問9	教材(テキスト・視覚教材・板書・配布資料など)・教具(設備使用)などが適当であったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1776	326	91	19	32	2244
	比率	79.14%	14.53%	4.06%	0.85%	1.43%	100.00%

令和5年度…「思う」66.49%、「思わない」0.93%



令和6年度…「思う」79.14%、「思わない」1.43%

授業内容は満足するものであったか

令和5年度 後期	質問10	授業内容は満足するものであったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1856	663	203	39	26	2787
	比率	66.59%	23.79%	7.28%	1.40%	0.93%	100.00%

令和6年度 後期	質問10	授業内容は満足するものであったか					
	評価基準	思う	まあまあ 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	合計
	件数	1769	321	93	26	35	2244
	比率	78.83%	14.30%	4.14%	1.16%	1.56%	100.00%

令和5年度…「思う」66.59%、「思わない」0.93%



令和6年度…「思う」78.83%、「思わない」1.56%

まとめ

- ・授業への取り組み、自主学習に熱心に励む学生が増えており、学習への意欲が高いことがうかがえる。一方、3回以上欠席する学生の割合が増えている。
- ・概ね昨年度より学生の授業に対する評価は高まっている一方で、一定数授業の改善が必要であるとの意見が見られた。

「自己評価シート」に基づいた FD&SD 活動

FD&SD 推進委員会では、令和 5 年度より導入した「自己評価シート」を活用し、FD&SD 活動の推進を図ることにした。

1. 導入の目的

自己評価シートは、組織的な自己点検・評価を促すツールであるが大学運営に必要な知識や技術を身につけ、業務の質的向上を目指すFD&SD活動を推進する側面からも有効であると考えられ、運営委員会と連携して取り組んだ。以下は、導入の主な目的である。

- ①年間目標を明確化し、目標に向けて取り組みを推進できる。また、進捗状況を適宜確認することで計画的な活動が期待できる。
- ②自己評価シートをもとにして、全教職員に目標や達成状況・今後の課題などを周知することで全学的で組織的な取り組みにつながる。
- ③自己評価シートで目標設定→具体的な方策→自己評価・点検→分析と次の課題といった一連の流れを活字化することにより、PDCAのサイクルを可視化することができる。
- ④資料作成時および自己評価の際に、エビデンスを意識することで、第三者から評価を受ける際にもわかりやすく明確な評価資料を整えることができる。

2. 活動の流れ

令和6年4～5月 自己評価シートの作成を各委員会へ依頼

5月22日（水）運営委員会において審議・承認

5月22日(水) 教授会にて全学共有

10月 中間評価の実施

1 1月6日(水) FD&SD 研修「自己評価シートに基づく中間報告」

令和7年1～2月 年度末評価の実施

3月19日（水）FD&SD研修「自己評価シートに基づく年度末報告」

3. 自己評価シート（見本）

令和 6 年度 埼玉純真短期大学 OOOO委員会 自己評価シート

今年度の重点目標 ① 自己点検・評価報告書の提出時期を早める ② 〃 ③ 〃	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 30px;">達成度</td> <td>A ほぼ達成(9割以上)</td> </tr> <tr> <td>B 概ね達成(8割以上)</td> </tr> <tr> <td>C 変化の兆し(4割以上)</td> </tr> <tr> <td>D 不十分(4割未満)</td> </tr> </table>	達成度	A ほぼ達成(9割以上)	B 概ね達成(8割以上)	C 変化の兆し(4割以上)	D 不十分(4割未満)
達成度	A ほぼ達成(9割以上)					
B 概ね達成(8割以上)						
C 変化の兆し(4割以上)						
D 不十分(4割未満)						

※ 今年度の重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を登録する。）は複数設定可能。

※ 競争率は重点目標の番号と対応させる。

自 己 評 価				
年 度 目 標			年 度 評 価（ 考 査 状 況 ）	
競争率	現状と課題	具体的方策と目標	評価項目	評価項目の達成状況 達成度 次年度への懸念と改善案
1	自己点検・評価報告書の取組、進展は前年度終了後から進捗が見込まれた。翌年度の年度末まで時間がかかると予想見込みがある。そのため、外郭評価委員に評価いただくのは、2年以上経過してからとなってもよい。外郭評価委員の貴重な意見が大半議員さんでポイントに反映されるべく意識がある。	①令和4年度中に所属幹事委員会が所属会員を集め、速くとも夏にはすべての所属会員を出迎いたたく。 ②第1回委員会時より発行目標を設定し、計画的に事業実施を進めていく。 ③委員の役割分担を年度当初に行い、それぞれが責任をもって担当部分を担ぎつつや、委員会内にチームを立ち上げる。発刊にむけて担当委員が相互に連携して取り組めるようにする。	・自己点検・評価報告書の取組を年内（令和4年12月まで）に発刊できるように計画することを目指す。 ・令和4年度委員会を令和5年12月までに発行する。	①令和4年中の発行を目指し計画的に作業を進めた結果、12月20日数回分に対して準備し、発行することができた。 ②発行目標を年内に設定。委員会内で状況を確認しながら進めた。 ③分担範囲等については各担当者が事前に、適宜委員会等で状況報告をしたが、委員長が中心となって確実に取り組んだ。
2				A ①令和4年第1回の委員会でのスケジュールなどを調整した。 ②今年度は新任担当者も前任担当者での継続や経験に依頼も生じていたため、次年度は反省を踏まえた対応を行っている。
3				

(報告者：FD&SD 推進委員会委員長 瀬戸 泰)

職員取り組み 3分スピーチ

「冷暖自知」

臼倉 律子

仏教の禅宗の言葉に、「冷暖自知」というものがあります。目の前の水が冷たいかは、飲めばおのずとわかります。そこから、悟りとは人から教えられて理解できるものではなく、本人が自分で悟らなければならないという意味の教えとなりました。

何事も、実際にやってみて初めてわかることは多いものです。テレビやインターネットで見る情報と、現地に行って自分自身が体験して得る情報は、その質に大きな違いがあります。

仕事においても同様です。人から教えられるだけではなく、実際に挑戦し、試行錯誤することで、より深く理解できます。たとえばリーダーを目指すのであれば、現場を体験し経験を積むことで、的確に判断し、現場に指示を出すことができるようになるでしょう。

多くの企業では、入社するとまず工場や店舗などの現場から経験を積む方法をとっています。営業や管理業務への配属であっても、現場を知ることによって初めて自分たちの業務を理解することができるからです。部下や後輩を指導する際、まず体験から学んでもらうことが大切です。

今日の言葉◇体験が理解につながります

「案ずるより産むがやすし」という諺があります。自分自身の過去を振り返ってみると引っ込み思案であり、何事にも色々と考えてしまう性格であり行動に移すまでには時間を要するところがありました。「石橋をたたいて渡る」ときもあれば、叩いた挙句に渡らない選択をしたこともあります。

社会人となり、様々な経験を積んで行く中で、何事も経験してみなくては分からない、やってみたいと思った事は、極力挑戦してゆこうと考えるようになりました。新しい事に挑戦する時には、心配や不安が大きいのしかかってきます。勇気を振り絞り一步を踏み出すことで、自身の糧になることが増えてきます。ベストを尽くして挑戦したけれど、違うと思った時には勇気を出して引き返せばよいと思います。たとえ、失敗したなど後悔に思うことがあっても、それが無駄になることは無いと思っています。私自身、携わってきた業種とは繋がりがなさそうな仕事をする中で、あの時の経験が活かすことができていると感じることが多々あります。

現在、私は埼玉純真短期大学にて実習指導担当として在学生の実習に関する業務に従事しています。保育者養成校であり、学生は「幼稚園」・「保育園」・「施設」と現場実習へ向かいます。机上の学びとは違い実際に現場へ学びに行くことは、何事も初めてだらけで緊張と不安があると思います。実習中の学生が、悩み、慣れない環境で自分自身と闘いながら一回り二回りも成長し自信をつけて戻って来る姿を目の当たりにすると、感動を覚えます。実習の1つ1つを体験する度に力をつけ、卒業を迎え社会へ出て行き、それぞれの舞台でまた新たな経験を積んでプロフェッショナルとなり、今度は、教える立場となって行くのでしょう。私は実習へ赴く学生が安心して実習先で経験を積んで戻って来られるように、誠心誠意、縁の下の力持ちとして応援して行きたいと思います。

『月刊朝礼』：株式会社コミケ出版 より

「未来のためのイベント」

大木 美晴

Iさんが勤める出版社は同業の他者と協力して、年に一度、地域の子どもたちのために「本のイベント」を開催しています。

自社の出版物かどうかにかかわらず、広く名作といわれる絵本や児童書を展示したり、紙芝居の公演をしたりします。また、小学校高学年向けには、出版社の仕事を体験してもらうワークショップも実施しています。

イベントの目的は、本を好きな子どもを増やすことです。出版が不況の今だからこそ、本や出版業界に親しんでもらおうと考えました。そのために同業者同士で協力することにしたのです。

売り上げにはつながりませんが、業界全体の未来のためのイベントです。

Iさんの上司は次のように言います。

「業界を活性化させるためには、裾野を広げることが大切です。小さな活動ですが、一人でも多くの子どもに読書の楽しみを広げていきましょう」

裾野を広げるとは、その分野において新たな人口、または若い人口を増やすことです。興味を持ってくれる人を増やす活動は、どのような業界でも大事です。自社の活動にとらわれず、業界全体で取り組むことが理想でしょう。

今日の言葉◇未来のために貢献しましょう

保育者養成校である本学は、未来への貢献という点では子どもや若者を育むという重要かつ直接的な役割を担っています。その貢献度や成果は「商品の売り上げ」など数字として目に見える形では現れにくいものです。しかし、卒業生が保育や幼児教育の分野で活躍していたり、卒業生が先生として育んだ子どもたちが社会に貢献できる人材として活躍することで喜びを感じられるのだと思います。

日頃は目の前の業務に忙殺されてしまうことも多いですが、改めて自分の働く意味を未来への貢献という大きな目標に見出していけるように心がけたいと思います。視野が大きく広がれば、業務改善や学生募集につながる楽しいイベントのアイデアなどが生まれてくるかもしれません。職場の皆さんと協力しながら働いていきたいと思っています。

『月刊朝礼』：株式会社コミニケ出版 より

「わが家のかかりつけ」

大澤 尚子

Yさんの家では、かかりつけ医とかかりつけ薬局を決めています。

両親の介護をするにあたり、何でも相談できる医師と薬局の必要性を感じたからです。最近では、医療の面に限らず、かかりつけを持つことが大事だと思うようになりました。それは、次のような出来事があったからです。

ある日洗濯機が動かなくなり、困って近所の電器店に電話を掛けると、夜間にもかかわらず駆けつけてくれたのです。修理してくれただけでなく、その後の使い方のアドバイスもしてくれました。

また、エアコンの調子が悪いので買い替えようと相談したときは、「まだ十分使えますよ」と、無料で修理をしてくれたのです。付き合いが長く、Yさんの家の事情を把握してくれているお店だからこそ、安心して相談することができます。

量販店や通販が便利なのは知っていますが、家族全員が高齢になった今、近所の酒屋さんや魚屋さんなど親身になってくれる存在をありがたく感じます。

高齢化社会の現代、これからは生活に寄り添うさまざまな業種の「かかりつけ」が求められるでしょう。

今日の言葉◇お客さまに頼られる存在にな리ましょう

私にも「かかりつけ」が幾つかあります。主に病院ですが、困った時、辛い時に、治療だけでなく、話せるだけでも気持ち楽になります。

生活している地域の開発が進んでいて、病院やお店など、新しく出来た施設などが増えました。建物が新しく、たぶん設備も最新で魅力的ではありますが、古くても以前から関わっている所なら、前からの症状を分かっている上でのアドバイスが貰えたり、辛いことでも話せたりすることもあるので、長年のお付き合いというのは大切にしたいと思っています。

お仕事で考えても、分からないことやトラブルのことを相談すると、快く的確に答えてくれたり、改善策をアドバイスしてくれたりする人が常にそばに居てほしいと思っています。小さなことでも、相談できる人が居ると居ないとでは、業務を行っている上での安心感は全く違います。このお仕事の

「かかりつけさん」が居てくれないと、困った時に自分だけで何とかしなくちゃ…という変な責任感の気持ちになり、誰かに話したところで、皆もそれぞれ大変で、本当の辛さは誰にも分かってもらえないなどと、孤独感と恐怖心でいっぱいになり、マイナス思考の悪循環をします。

幸い私には、お仕事のアドバイスなどをしてくれる人が、近くではなくちょっと距離のある所ですが居てくれます。そして、お仕事やそれ以外のプライベートでも、辛い時や困った時に、話を聞いて励ましてくれる人が近くに居てくれるので、時々悪循環をしてしまいながらも、今日まで頑張ってきました。地元のかかりつけ医と同じくらい、とても大切な存在です。

私自身、長く社会人をしてきたので、役立つかは別として、変な雑学や記憶はあつたりします。そんなことでも、誰かの中での頼れる存在までではなくても、せめて、あの人が居てくれて良かったと思ってもらえる存在であれば良いなと思います。

『月刊朝礼』：株式会社コミニケ出版 より

「言葉の先頭に来る“ヌ”の音にはすごい破壊力が備わっている」

奥貫 慶一郎

文章中にあったヌのつく言葉、ぬばたま、ぬえ、ぬめり、ぬかるみ、ぬらぬら、ぬたうなぎ、ぬま等、得体のしれない雰囲気がある。

「ぬ」が単語にある言葉からは、奇妙に響く、訳も分からないような粘っこさや背筋が粟立つような寒気を覚えるような気になるのは私だけでしょうか。いえ、私だけではないはずです。

「ぬ」は言いづらい、そして聞こえづらい言葉の代表のようです。わたくしの名字の中に「ぬ」がありますが、初めてお会いした人には「ぬ」ではなく「ゆ」や「の」と聞こえているようで、何度も聞き返されます。何度もお教えしたのに聞き取れなかったのかな、という郵便物にもしばしば出くわします。

語感には昔からの人々の思いが詰まっているのだと思います。環境の変化にも強そうで滅びそうもない油断のならない「ぬ」という言葉ではありますが、その音が入っている言葉を今後とも大事にしていきたいと思います。

ちなみに、わたくしは、漆黒の代名詞のような「ぬばたま」色は好きな色のひとつです。

朝日新聞 折々のことば より

ぬ

「好きになる」

栗原 奈緒美

「好きこそものの上手なれ」という諺の通り、自分が好きなことはモチベーションが上がり、楽しみながら熱心に取り組むため、上達も早いでしょう。

また、家族や友人との飲食店巡りやスポーツ観戦など、好きなことによって楽しい時間を過ごせば、心が満たされていきます。

ところで、日々の仕事に対しては、どのように向き合っているのでしょうか。〈今の仕事があるのはありがたい〉と、喜びを感じて働き続ければ、ますます仕事を好きになるでしょう。

さらに、これだけは人に負けないという技術が身につけられれば、自己の能力は一段と向上し、それによって会社全体の生産性も上がります。すると、職場内で信頼が得られるようになっていきます。時には荷が重い仕事を命じられたり、任せられたりするかもしれません。しかし、どのような仕事であっても、やるからにはその仕事を好きになり、ベストを尽くして取り組むことが、豊かな人生につながっていくのです。

今日の心がけ◆喜びを感じて働きましょう

私にとって仕事の喜びとは、人とのつながりです。

仕事を進めていく上で、いろいろな人との出会いが日々勉強、刺激的であり、その繋がりの中で自分がどれだけお役に立つことができているか…、置かれた場所で価値ある仕事ができているのか…自分自身の挑戦だと思っています。また、この挑戦を今も続けられていることも喜びを感じています。

そして、常に”誰と働くか”ということを念頭におき仕事に臨んでいます。これは、私が誰と働きたいと思うことではなく、”一緒に働けて良かった”と思っていただけるよう努力をするということです。

仕事は与えられるものではなく、自ら進んで取り組まなければ成果は出ません。人それぞれの仕事の方法はあると思いますが、仕事ぶりというのは、やる気があるかないか…二つに一つです。

自分のすべき仕事にしっかりと向き合い、本学の学生が、保育者として喜びを感じて働く日へのお手伝いを本年度もまた精一杯努めたいと改めて思いました。

『職場の教養』：一般社団法人倫理研究所 より

「人生のモットー」

五月女 和美

Kさんはあるとき尊敬する先輩に「人生のモットーは何でしょうか」と尋ねたところ、先輩は「猛烈に愛して生きる事だ」と答えてくれました。

先輩はその時、「猛烈に愛して生きることは、この世に生を受けた人間の務めであり、そのことが人間性だと思う。私は、猛烈に愛して生きたという証を遺していきたい」と言い添えました。

愛する対象は、家族、両親、兄弟姉妹、故郷、母国、会社など数多くあります。

〈初めからすべてを愛することはできないだろう。まずは身近な存在から〉と思い、Kさんは家族を猛烈に愛して生きていこうと決めました。

しばらく経ってからそのことを先輩に話すと、「一つの物を愛すると、愛は他の物へと広がっていく」と言われ、「お互いにしっかりと証を遺していこう。」と励まされました。

Kさんはその時、自分の人生を新たに生き直すような感覚が湧きあがってきて、一段と人生に張りが出てきたように感じました。

今日の心がけ◆人生に張りを持ちましょう

「モットー」日常の行為、態度の指針としている事柄。座右の銘とも言え換えられるでしょう。

先日就職活動中の娘が、履歴書に自分のモットーを書かなければならなかったようで、私に向かって「お母さん、私のモットーって何？」と聞いてきました。

「いくら家族とはいえども、さすがに自分のモットーはあなただけのものだから母が言う事とは違うよね」そう言って、顔を見合わせて笑いましたが、改めて聞かれるとすぐには出てこない物なのかとも思いました。

Kさんの先輩のような「猛烈に愛して生きる」ほど、強烈なモットーではありませんが、私にも一つこれだけはと心掛けて仕事に向かっている事があります。

それは、「正直に向き合う、ごまかさない」という事です。

これは、少なからず自分自身の体験にもよるのですが、仕事をする上で、ごまかす、嘘つく、言い訳をするは、ろくな事にはならないという経験があるからです。

娘も成功や、失敗、たくさんの経験通じて、自分自らの「モットー」を見つけてほしいものだと願っています。

『職場の教養』：社団法人倫理研究所 より

「永遠に完成しない」

鈴木 君代

ディズニーの創始者、ウォルト・ディズニーは、1955年、アメリカ・カリフォルニア州に最初のディズニーランドをオープンしました。

その際、次のように語ったと言います。

「ディズニーランドは永遠に完成しない。この世界に想像力が残っている限り、成長し続ける。」

その後、世界各地に設立されたディズニーランドは、時代とともに進化し、人々を魅了し続けています。

かつて、遊園地は子供だけが楽しむ場所でした。そこでディズニーは「大人と子供が一緒に楽しめる場所をつくるべきではないか」と考えたのです。その思いは生き続け、常に新しい発想で来園者を喜ばせています。

自社で扱う商品やサービスも「永遠に完成しない」と考えてみましょう。

工夫すべき点は、まだまだあるのではないのでしょうか。商品自体に手を加える必要がなくても、販売方法には改善の余地があるかもしれません。また、たとえ一時は満足してもらえても、お客様が求めることは時代とともに変化していきます。

飽くなき探求心と想像力が、未来の仕事につながります。

今日の言葉◇想像力が工夫と改善につながります

永遠に完成しないというのは、とても労力を要することだと思います。

物事にはスタートがありゴールがあります。普段の生活の中でも日々私たちは大なり小なり完成させながら生きています。完成させるということは満足感を得られ自信に繋がります。完成させ成し遂げることは必要だと思います。

しかし「完成」としてしまえば思考はそこでストップし、それ以上の何かを考えることをしなくなってしまいます。時代も常に変化しています。その時代では良しとされていた物事が今の時代にそぐわない場合もあります。ルーティンワークが間違いだとは思いますが、たまには一度立ち止まり思考を巡らせ、別の角度で見直してみる、あるいは他者に意見を聞いてみる。そうすることで今まで完成しゴールだと思っていたものが再び動き出しブラッシュアップされていくと思います。

埼玉純真短期大学の一員となり、業務を把握することに精一杯で自分に何ができるのかまだまだ模索中ですが、当たり前を当たり前に過ごすのではなく、小さな気づきを大切に、柔軟な意識を持ち、永遠に完成しない、常にアップデートしていく自分でありたいと思います。

『月刊朝礼』：株式会社コミニケ出版 より

「心ここに」

相馬 萌

何となく見ていたテレビ番組の内容は、よく覚えていないことが多いものです。ぼんやりしたり考え事をしたりしているときは、目の前のものが見えなくなることがあります。

中国の古典『大学』に、次のような言葉があります。

「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食えどもその味を知らず」

「自分の心がしっかりとしていなければ、見ようとしても何も見えず、聴こうとしても何も聞こえず、食べたとしても味がわからない」という意味です。

何事も意識して集中しなければ、何も得ることはできないという戒めでもあります。

逆の言い方をすれば、心の持ち方一つで、あらゆる情報や学びを得ることができるといえます。

いつも流し見しているニュース番組も「自分の会社やお客様への影響はあるだろうか」という意識で見れば、興味深い情報に気づくことができるのではないのでしょうか。

今日の言葉◇見ようとすれば見えてくる

新しいお店ができたのを見て、前に何があっただろうと考えても思い出せないことがあります。普段通る道で何度も見ていたはずなのに、当たり前の景色に見えていなかったのだと思い知らされます。

仕事においても、習慣となっていることは見ているようで見ていないことがあり、業務が大変になると、余計に見えなくなってしまうこともあるように感じます。

私自身、初歩的なミスを見逃していることがあります。そのため、適宜、問題はないか、間違っているかもしれない、と気にする意識を持つように取り組みます。そして、先生方や学生、保護者や外部などに対して、話す、文書を出す、発注するなど行動を起こす時には、より注意を払います。

そういった確実な仕事をするだけでいっぱいいっぱいになってしまうことが多いですが、この話にあるように、いろいろな事柄において、業務に繋がることや活かせることがまだまだあると思います。日常から意識を高めて、過ごしていきたいと感じました。

『月刊朝礼』：株式会社コミニケ出版 より

「不撓不屈」

田口 宏美

四月は新入社員や新メンバーを迎えることが多いため、職場に新しい風が吹く季節となります。一方、新天地で理想を描き働き始めたものの厳しい現状に直面し、そのギャップから意欲の低下や新たな人間関係で悩む人もいます。

ハリー・ポッターシリーズの作者 J.K. ローリング氏は、かつて心の支えであった母親が亡くなり、わずかな収入で何とか暮らしていました。

そのような境遇でも物語を書き続け、多くの出版社に原稿を送りましたが、採用されませんでした。ところが、ある編集者の子供が原稿を読んだところ、関心を示したことがきっかけとなり、作品が世に認められるようになったのです。

中国の歴史書『漢書（かんじょ）』の中に、強い意志を持ちどんな困難や苦勞にもくじけないという意味の『不撓不屈』という言葉が紹介されています。

社会人として、誰しも仕事の悩みや困難な問題にぶつかる時があるものです。しかし、それを乗り越える強い意志を貫き通した先に、知恵や新しいアイデアが生まれ、チャンスが巡ってくるのです。

今日の心がけ◆強い意志を貫きましょう

1 年生は本学に入学して約 4 カ月が過ぎましたが、「毎日が楽しい」「子供に触れ合うことが好き」という学生的心声を聞きます。反対に不安や迷いを持っている学生もいます。

そんな中、幼稚園教諭や保育士になる強い意志を持った学生は、積極的に色々なものにチャレンジしています。

そこで成功体験をし成長する学生もいれば、失敗体験をし上手くいかず悩むこともあると思います。挑戦することは自分の力になります。そして何かあっても学生時代は周りの先生や友達が必ず助けてくれます。しかし社会に出たら、そういうわけにはいきません。少しずつ強い自分になって埼玉純真で色々な準備をし、この「不撓不屈」の精神を持った社会人になれるよう学生生活を挑戦の場として過ごして欲しいと思っています。

『職場の教養』：一般社団法人倫理研究所 より

「イモニケーション」

田中 淳一

芋煮会とは、山形県や宮城県をはじめとする東北地方各地で行なわれる行事です。河川敷などの野外に集まり、里芋の鍋料理などを楽します。東北地方における秋の風物詩として有名です。職場や仲間同士の親睦を深める交流の場として開催されるため、「イモニケーション」という言葉もあるそうです。東北各地で行われる芋煮会ですが、なかでも山形県中山町は、芋煮会発祥の地といわれています。同町では、芋煮の文化を県外の人にも知ってもらうため、10月2日を「芋煮会の日」としました。一説では、起源は江戸時代にさかのぼります。最上川のそばで船頭が積み荷を引き取りに来る人を待つ間、里芋を煮て食べたのが始まりだといえます。野外での芋煮会やバーベキューは、気分が盛り上がるうえに、互いの普段とは違う一面を見ることができます。協力して料理を作ったり片づけたりする経験は、チームワークの向上にもつながるでしょう。地域によって、親睦を深める方法はさまざまです。自社に合った場を設け、社内のコミュニケーションを図ってみるのもよいのではないのでしょうか。

今日の言葉◇地域に合った方法で親睦を深めましょう

先日、教職員のワークショップが実施されました。

始めに人間知恵の輪が行われ体をほぐし雰囲気になりました。その次に5人程度のグループに分かれて意見交換後に発表をしました。否定しないことでお互いの普段とは違う一面を見ることが出来ました。

理事長は来学するたびに何かメッセージ性のあることを落としていってくれているのだと思います。それは変わろうとしている埼玉純真に必要なもので、今からの埼玉純真を作り、これから数年後、埼玉純真は変わったね、どう変わったか言われるのが楽しみです。

人間関係を築くには、人の特性を受け入れることが出来るかです。担当として何を配信できるか、相手から何を受け取れるか、お互いに相乗効果が出るように工夫をしていきたいと思います。

『月刊朝礼』：株式会社コミニケ出版 より

「睡眠指針」

寺田 明美

季節が変わり秋の気候となりました。昼夜の寒暖差があるこの時期は、心身ともに不調を感じやすくなります。食事や運動など、健康維持に必要なものはたくさんありますが、なかでも睡眠は大事です。

放送作家として活躍する野呂エイシロウさんは、著書において「睡眠は人生の中心である、それくらい重要なものだと考えて生活しています」と述べています。野呂さんは忙しいときでも、就寝と起床の時間を必ず守ることで睡眠時間を確保し、健康を維持しているそうです。

厚生労働省でも健康づくりについて動いています。平成 26 年度に策定された「健康づくりのための睡眠指針」の最新版では、1 日の睡眠時間を平均 6 時間以上とることが推奨されています。

良い睡眠とは、心身と脳の休息がしっかり取れていることをいいます。

忙しい時期は睡眠時間を削りがちですが、体調を崩して仕事の質が落ちては本末転倒です。睡眠不足は集中力や注意力が落ちるため、事故を防ぐという観点でも重要なことです。日中の時間を有効に使うためにも、夜はできるだけ早く休み、明日に備えましょう。

今日の言葉◇眠ることも仕事のうちです

睡眠といえば枕にこだわりを持っている人も多いと思いますが、眠りの専門スタッフが枕の形状や高さを測定して作るオーダーメイドのものは相変わらず人気です。また最近では着るだけで血行を促進し疲労軽減をサポートするというパジャマが話題になっています。

このようにストレスや慢性的な疲労を抱える現代人にとって、良質な睡眠は大変重要な位置づけになっています。これは、睡眠が与える仕事への影響や、睡眠時間の短さから引き起こされる健康リスクが明らかになってきているからでしょう。

睡眠の質を向上させることで得られる心身の疲労の修復やストレスの軽減を、より多く実感できるように工夫をしながら、良質な睡眠を取り仕事のパフォーマンス向上を目指したいと思います。

『月刊朝礼』：株式会社コミニケ出版 より

「レジリエンスを高める」

中村 周

レジリエンスとは、心理学において「ストレスを跳ね返す力」「困難をしなやかに乗り越える力」を指す言葉です。

強固で動じないというより、弾力がありしなやかという意味合いがあります。ゴムのボールがへこんでも、すぐに元の形に戻るのと同じように、一度落ち込んでもすぐに立ち直ることができる力です。

レジリエンスを高めるのは、次のような要素だとされています。

「自分を客観的に見る力」「感情のコントロール」「物事を柔軟に捉える姿勢」

「前向きに考える力」「自分にはできると信じる心」「他者とのつながり」

これらの要素を身に付けることで、レジリエンスが高まります。とはいえ、生まれつきの性格にもよるため、すぐには変えることができないものもあります。その場合は、毎日少しずつ身に付けていく必要があります。

たとえば毎朝、「今日も私はツイている！」と声に出してみる方法があります。幸運が自分に来ると信じることは、レジリエンスに必要な要素を高めます。

また、笑顔を心掛けることも良い影響があるでしょう。困難を乗り越える力を高めるため、習慣にしていかがでしょうか。

今日の言葉◇しなやかな心が立ち直りのカギに

普段、私たちは多かれ少なかれ何かしらのストレスを感じているはずです。さらりとかわせるものもあれば、重くのしかかって堪えてしまうものもあります。

一昔前、精神論がはびこっていた社会では、ストレスを感じる前に根性で跳ね飛ばすような強固な力が作用していたのかもしれませんが、今はそうはいきません。

私自身、イライラした感情をコントロールできずに、癪癪を起していたこともありました。

その時は、自分を客観的に見て柔軟に捉える余裕がなく、プラス思考に切り替えようにも自信の無さが影響していたように思えます。そんな時、他者とのつながりを意識することで、大変助けられました。

仕事が上手くいかない、勉強に思うように取り組めない、人間関係がぎくしゃくする、誰もが感じる事かと思いますが、思い詰めると人によっては潰れてしまうでしょう。

これが若い世代、学生であれば、なおさら感じているかもしれません。

以前、長野県の知事であった作家の田中康夫氏が「しなやかな改革」という言葉を使っていて、当時はそのような表現に馴染みが無かったのですが、これからは、しなやかに構えて、しなやかに支えることを心掛けていきたいと感じました。

『月刊朝礼』：株式会社コミニケ出版 より

「ベテランの機転」

西山 理恵

中川剛さんと礼二さんによる兄弟の漫才コンビ、中川家のエピソードです。

数年前、あるイベントのステージで見せた対応が話題になりました。2人の漫才が終盤にさしかかったとき、前方の客席で赤ちゃんが泣き始めてしまいました。あかちゃんの父親が慌てて連れ出そうと席を立ったところ、弟の礼二さんが次のような声を掛けました。

「出ていなくていい。そんな良い席なのに。赤ちゃんは泣くのが仕事」

さらに、親子をステージの上にあげると、弟の礼二さんがなくあかちゃんを抱っこし、兄の剛さんがイヌやネコの鳴きまねをしてあやしたそうです。すると赤ちゃんは泣きやみ、ニコッと笑いました。

それを見た客席も笑い、会場はほのぼのとした雰囲気になりました。

ベテランの機転と余裕が垣間見られる一幕です。不足の事態に冷静に対応し、それを本業の笑いにつなげる見事さは、彼らの実力がなせる技でしょう。

誰にでもまねできることではありませんが、温かい思いやりと、どんと構える度胸は見習いたいものです。

今日の言葉◇機転と余裕を身に付けましょう

心に余裕がある人の特徴について調べてみたところ、

○気持ちのリセットが上手 ○オンオフの切り替えが上手 ○1人で抱え込まない とありました。気持ちのリセットは、自律神経を味方につけることとあります。

イライラすると自律神経が乱れ、鼓動が早くなりうっかりミスを誘発するそうです。そんなときは、深呼吸をする、わざとゆっくり行動をする、とアドバイスがありました。

オンオフの切り替えについては、仕事の時間に区切りをつけ、趣味の時間など自分のために使える時間をもつことが大事です。

1人で抱え込まないとは、仕事であればチームワークを大切にすることとあります。プライベートでは、悩みがあれば家族や友人に相談をして助けを求めることも必要なのかなと思いました。

また、ポジティブな考え方に無理やりもっていくことも、ときに有効です。私は仕事に追われているとき、今までにない量のタスクをこなせてる、新記録！と自分を鼓舞しています。そうすると、まだまだできる、どこまでできるか、と挑戦の気持ちが湧いてきます。常にポジティブでいることは難しく、感情に振り回されることもあります。人の感情はまわりにも影響を与えるので、可能な限りフラットな心の状態でありたいと思います。

そして、ハプニングに遭遇してもこれまで経験を積んできた自分を信じ、余裕ある対応を心がけようと思います。

『月刊朝礼』：株式会社コミケ出版 より

「菜の花の咲く頃」

松浦 文江

鮮やかな黄色の菜の花が一面に広がる光景を、目にしたことがある人もいないのでしょうか。

春に咲く花と言えば桜が代表的ですが、二月から五月にかけて開花する菜の花も有名です。

毎年、全国各地の菜の花畑に多くの観光客が訪れています。

菜の花の花言葉は「快活」や「明るい」といったもので、黄金をイメージさせる黄色の花から「豊かさ」や「財産」という意味もあります。

また、お浸しなど菜の花を使ったレシピも多くあります。食事に彩りが増し、春の訪れを実感させてくれる植物と言えるでしょう。

文豪の夏目漱石は、菜の花について多くの名句を残しており、「菜の花の 遥かに黄なり 筑後川」などがあります。漱石は筑後の春の風景に心を動かされ、その感動を表現するために一句詠んだのでしょう。

季節は移り変わっていくものです。忙しい日々の中で、ほんのひと時でも春を味わいたいものです。

今日の心がけ◆春を楽しみましょう

こちらを読みまして、春だけではなく、子供と関わる仕事（保育士さん）を目指す学生にとっては、春夏秋冬を感じることに、季節の流れと共に小さな変化に気が付く事、とても大事な事だと思っています。

子供は、大人が思いもよらない発想で気付きを与えてくれます。

私自身、年間のイベント事は、娘が産まれてから感受性や想像力を育てる意味でも、意識させたいという思いから、家の玄関やお部屋など、毎月テーマを決め飾りつけをしています。

娘と話し合ったり、時には娘に任せてみたり、私の想像うとは全く別の作品が出来上がることに、私自身気付きをもらえ、新しい感覚に出会える場です。

学生の皆さんにも、小さな変化をしかけられるよう、そしてこちら側も学生さんの変化に気づいてあげられるよう、食堂の仕事を通じ取り組めたらと思います。

食堂の接客を通じて、生徒さん一人一人の良い所に気付き、見つけてあげられるように、私自身がまっさらな気持ちで改めて今後も向き合っていきたいと思います。

『職場の教養』：社団法人倫理研究所 より

FD活動「相互授業参観」

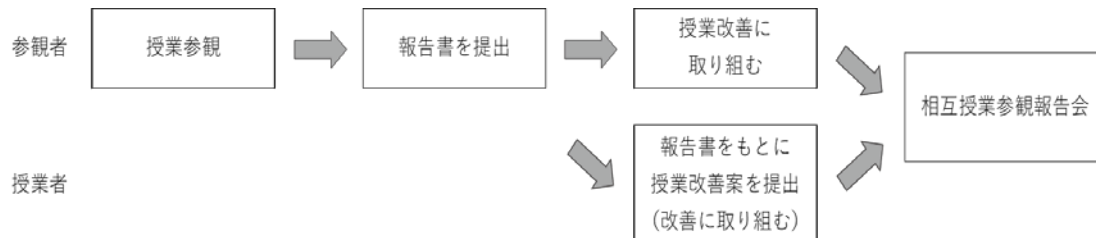
FD&SD 推進委員会では、授業の質的向上を目的とした FD 活動の一貫として本学専任教員を対象とした「相互授業参観」を実施している。

1. FD 活動「相互授業参観」とは

相互授業参観は、本学専任教員を対象にして行われるもので、教員間が相互に授業を参観することで、授業改善を図り授業の質的向上を目指し、半期に 1 回（年 2 回）以上の活動を求めている。FD&SD 推進委員会では、授業参観の促しと活動予定日の集約、報告書とコメントの集約、相互授業参観報告会の運営を担っている。

2. 「相互授業参観」における PDCA サイクルの確立

令和 5 年度に実施した相互授業参観では、教員が授業を参観することで授業の質的向上へとつなげることを目的としていた。令和 6 年度は、参観者が報告書を提出後、授業者も報告書をもとにコメントを提出することで、“参観者と授業者の双方”が授業改善へと取り組むことができるようになった。



3. 「相互授業参観報告会」の開催

FD&SD 推進委員会では、全ての参観を終えた 3 月に相互授業参観報告会を実施。報告会では、現在の授業の状況や、改善案を教員間で共有することを目的とし、教員それぞれが発表を行った。

【改善を試みたことや、改善に向けて試みたいこと】（相互授業参観報告会より）

- ・ リアクションペーパーの活用。
- ・ 保育現場の状況の把握が大切であると感じた。現場経験のある先生、園の先生方にお話を伺いながら授業を進めたい。
- ・ 学生に伝わりやすいイラストや実際の動画を取り入れることで、より授業内容が身近な話に感じることができたことがわかった。
- ・ 学生主体の授業となるよう、調べ学習やグループワークを取り入れたい。

- ・ 学生が自由に発言できる時間と、教員の話聞く時間のメリハリが必要である。
- ・ 授業の導入部分の工夫。
- ・ 伝えるべき言葉をしっかりと持って伝えることが必要だと感じた。話し方（声の大きさやスピード感など）に気を付けていきたい。
- ・ クラスルームの活用。学生自身が学習状況や、評価について理解することができると感じた。
- ・ 講義科目は教員が一方的に話す形になってしまいやすいため、工夫が必要だと感じた。
- ・ 授業の特殊性や内容によって、学習形態の工夫が必要であることがわかった。前半が自学・グループ活動、後半が講義などの流れにすると、学生が集中して授業を受けている様子が見られた。
- ・ 机間指導を行い、どの学生にも目を配れるようにしたい。
- ・ 学生に考える・書く力が身につくような授業を行いたい。
- ・ 授業間連携を図る。全ての授業がつながっているという意識を持ちたい。
- ・ 学生に伝えたいという思いから答えに導きがちになるため、学生が自分たちで学べるような授業になるよう心掛けたい。
- ・ 令和7年度は「あそび×まなび」を授業に取り入れる。
- ・ 実際に授業内で起きたことに対し、「こういう場面では、保育者だったらどう思う？」と学生へ投げかけているのが印象的だった。
- ・ 複数教員が担当している科目において、指導法に差が出ないように気を付ける必要があると改めて感じた。シラバスやループリックも学生に伝わりやすものにし、教員間でもしっかりと共有していきたい。

（報告者：FD&SD 推進委員会委員長 瀬戸奏）

相互授業参観報告会

2025年3月26日

■前期 相互授業参観

回答数：11 参観科目：8科目

■後期 相互授業参観

回答数：19 参観科目：13科目

ご協力いただき
ありがとうございました

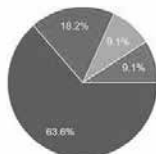


全体の授業方法

- 非常に参考になった
- 十分に参考になった
- ある程度参考になった
- 少しは参考になった
- あまり参考にはならなかった

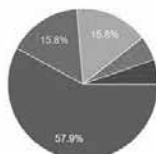
前期

11件の回答



後期

19件の回答

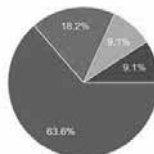


教材の工夫

- 非常に参考になった
- 十分に参考になった
- ある程度参考になった
- 少しは参考になった
- あまり参考にはならなかった

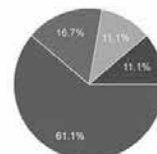
前期

11件の回答



後期

18件の回答

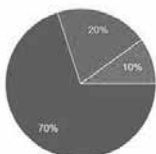


言葉の遣い方

- 非常に参考になった
- 十分に参考になった
- ある程度参考になった
- 少しは参考になった
- あまり参考にはならなかった

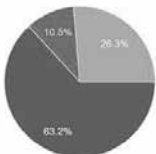
前期

10件の回答



後期

19件の回答

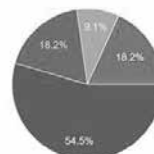


時間配分

- 非常に参考になった
- 十分に参考になった
- ある程度参考になった
- 少しは参考になった
- あまり参考にはならなかった

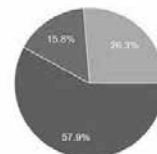
前期

11件の回答



後期

19件の回答

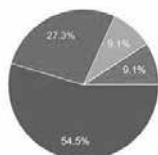


講義など説明の仕方

- 非常に参考になった
- 十分に参考になった
- ある程度参考になった
- 少しは参考になった
- あまり参考にはならなかった

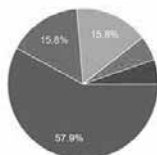
前期

11件の回答



後期

19件の回答

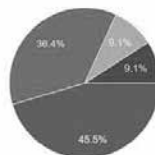


発問など声掛け

- 非常に参考になった
- 十分に参考になった
- ある程度参考になった
- 少しは参考になった
- あまり参考にはならなかった

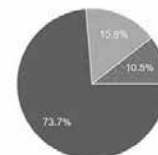
前期

11件の回答



後期

19件の回答

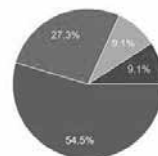


授業参画の工夫

- 非常に参考になった
- 十分に参考になった
- ある程度参考になった
- 少しは参考になった
- あまり参考にはならなかった

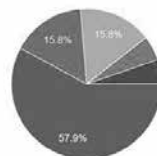
前期

11件の回答



後期

19件の回答



・ 前期、後期を比較して参観科目数が増えている。

・ 前期、後期ともにどの項目においても「非常に参考になった」「十分に参考になった」を合わせて7割に達している。

参観した内容や参観者からの報告書をもとに
令和7年度に向けた授業改善案の
ご発表をお願いいたします。



埼玉純真短期大学 FD&SD 推進委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、埼玉純真短期大学（以下「本学」という）学則第3条及び第43条、教授会規程第9条、委員会規程により、本学の授業内容及び方法の改善、ならびに職員の職務能力向上を図るため設置する FD&SD 推進委員会（以下「委員会」という）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 委員長
 - (2) 学長
 - (3) 委員 若干名
- 2 委員長は、学長が任命する。
- 3 委員会に書記を置く。書記は事務担当者とし、議事録を作成する。
- 4 委員は、本学委員会規程第7条に基づき、教授会構成員の中から委員長が指名する。

(委員会)

- 第3条 委員会は、委員長が召集し定期的開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。
- 2 委員会の議長は委員長が行う。委員長に事故あるときは、委員長が指名した者が議長となる。
- 3 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。
- 4 委員会の議決は、出席委員の過半数をもって決する。
- 5 委員会が必要と認めるときは、他の教職員の委員会への出席を求め、その意見を聞くことができる。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学則の FD 及び SD に関わる規則等の制定・改廃に関する事項
- (2) 授業についての研究会・意見交換会の開催に関する事項
- (3) 学生による授業評価アンケートの活用に関する事項
- (4) 教職員相互による教育活動、ならびに職務能力の向上に資する企画の立案・実施に関する事項
- (5) 教員の研究活動、ならびに職員の職務に関わる相互理解・認識の深化に資する企画の立案・実施に関する事項
- (6) FD 及び SD を効果的に推進するための研究会・研修会の開催に関する事項

- (7) 委員会活動に関わる自己点検・評価及び認証評価に関する事項
- (8) その他、FD 及び SD 活動の発展に資する事項

(委員の任期)

第5条 委員の任期は1年とする。ただし、年度途中で就任した委員の任期は、当該年度末までとする。

2 委員は再任することができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、事務担当者が行う。

(規則の改廃)

第7条 この規則の改廃は、学長の承認を得て、教授会に報告するものとする。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

2024 年度
FD&SD 推進委員会

委員長(前期)三友 玲子
委員長(後期)瀬戸 奏
副委員長(前期)布施 由起
副委員長(後期)三友 玲子
委員 金子 智栄子
委員 山畑 昭司
委員 金 美珍
委員 中村 周
委員 大澤 尚子

2025 年度
FD&SD 推進委員会

委員長 瀬戸 奏
副委員長 金 美珍
委員 金子 智栄子
委員 山畑 昭司
委員 田中 淳一
委員 大澤 尚子
委員 中村 周
委員(~6 月)臼倉 律子

発行日	令和 7 年 6 月 2 日 発行
編 集	埼玉純真短期大学 2025 年度 FD&SD 推進委員会
印 刷	S P 関根印刷所
発 行	学校法人純真学園 埼玉純真短期大学 〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地 TEL : 048-562-0711 (代表) FAX : 048-562-0715



Jeonshin